

第2章 支部の記録

1. 北海道支部

(1) 会員と組織、予算

1) 会員数、会員の構成

北海道支部は 1937(S12)年 10 月に札幌市内に設置された。2014(H26)年度～2023(H27)年度における北海道支部の会員数および会員の構成の推移は表 1.1 のとおりである。

表 1.1 会員数および会員の構成（北海道支部）

		2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
正会員	個人	1577	1564	1566	1541	1605	1539	1528	1480	1540	1567
	法人	55	57	57	57	58	59	58	57	58	59
計		1632	1621	1623	1598	1663	1598	1586	1537	1598	1626
学生会員		242	242	244	247	286	297	227	238	189	216
特別会員		53	53	53	48	48	52	51	51	51	51
合 計		1927	1916	1920	1893	1997	1947	1864	1826	1838	1893
名誉会員		27	28	30	32	36	34	36	37	33	31
フェロー会員		125	122	123	118	119	116	112	104	97	91

注) 名誉会員およびフェロー会員は正会員（個人）に含む。各年度の3月末日の会員数。

2) 組織

北海道支部の 2024(R6)年 9 月 1 日現在の組織は図 1.1 に示すとおりである。なお、「気候変動脆弱地域における複合地盤災害のリスク評価に関する研究委員会」は 2016(H28)年の豪雨災害や、2018(H30)年の北海道胆振東部地震の地盤災害を踏まえ設立され、2019(H31)年度～2021(R3)年度を第 1 期、2022(R4)年度～2024(R6)年度を第 2 期の活動期間としている。

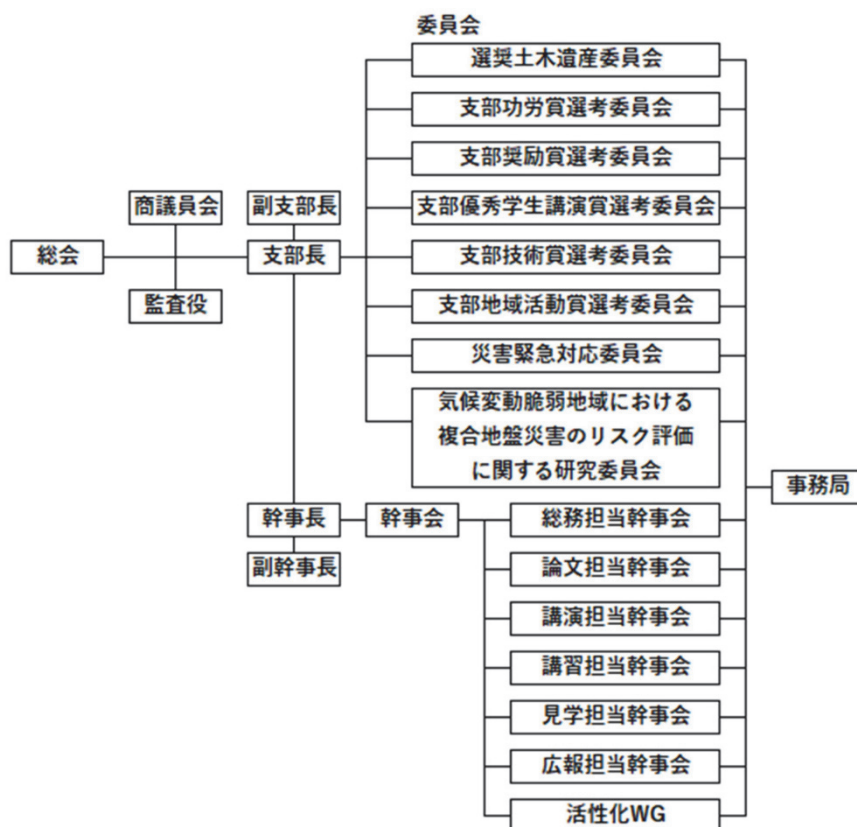


図 1.1 北海道支部運営組織 (2024.9.1)

3) 予算

北海道支部の2014(H26)年度以降の収支予算は表1.2に示すとおりである。

表 1.2 北海道支部の収支予算 (2014~2023)

年 度	2014(H26)年度	2015(H27)年度	2016(H28)年度	2017(H29)年度 (80周年事業含む)	2018(H30)年度 (全国大会含む)
当期収入	20,276,000	20,418,000	20,775,000	24,978,000	57,274,000
当期支出	22,071,000	21,144,000	20,775,000	24,978,000	57,274,000
年 度	2019(R1)年度	2020(R2)年度	2021(R3)年度	2022(R4)年度	2023(R5)年度
当期収入	22,649,000	21,272,000	20,462,000	31,225,000	20,902,000
当期支出	23,957,000	21,272,000	20,462,000	32,390,000	20,902,000

(2) 支部長・幹事長

北海道支部の2014(H26)年度以降の支部長・副支部長・幹事長の氏名は表1.3のとおりである。なお、()内の氏名は前任者である。

表 1.3 支部長・副支部長・幹事長（2014～2024）

年 度	支部長	副支部長	幹事長
2014(H26)	太田 祐司（ドーコン）	岡田 恭一（北海道） 蟹江 俊仁（北海道大学）	羽二生 望（ドーコン）
2015(H27)	小林 克俊（北海道） （岡田 恭一）（北海道）	清水 康行（北海道大学） 古谷 恵一（北海道電力）	北谷 啓幸（北海道） （南部 泰藏）（北海道）
2016(H28)	清水康行（北海道大学）	藪 正樹（北海道電力） （古谷 恵一）（北海道電力） 今日 出人（北海道開発局） （本田 幸一）（北海道開発局）	山田 朋人（北海道大学）
2017(H29)	藪 正樹（北海道電力）	和泉 晶裕（北海道開発局） （今日 出人）（北海道開発局） 木村 克俊（室蘭工業大学）	松浦 正典（北海道電力）
2018(H30)	水島 徹治（北海道開発局） （和泉 晶裕）（北海道開発局）	木村 克俊（室蘭工業大学） 島村 昭志（JR 北海道）	山越 明博（北海道開発局）
2019(R1)	木村 克俊（室蘭工業大学）	島村 昭志（JR 北海道） 小林 安樹（札幌市）	川村 志麻（室蘭工業大学）
2020(R2)	島村 昭志（JR 北海道）	小林 安樹（札幌市） 早野 亮（ドーコン）	川村 力（JR 北海道）
2021(R3)	土井 勝雄（札幌市）	早野 亮（ドーコン） 関 俊一（北海道）	茂木 秀則（札幌市）
2022(R4)	早野 亮（ドーコン）	関 俊一（北海道） 石川 達也（北海道大学）	熊谷 清貴（ドーコン）
2023(R5)	鷺尾 亨（北海道） （関 俊一）（北海道）	杉山 隆文（北海道大学） 松村 瑞哉（北海道電力）	樺澤 卓美（北海道） （道脇 正則）（北海道）
2024(R6)	杉山 隆文（北海道大学）	松村 瑞哉（北海道電力） 坂場 武彦（北海道開発局） （柿崎 恒美）（北海道開発局）	宮森 保紀（北海道大学）

(3) 支部事務局体制

北海道支部は1937(S12)年の設置以来、引き受け機関が事務局を担当し毎年のように移動していたが、1966(S41)年2月に長銀ビル5階（中央区南1条西2丁目）に移転して以降固定している。なお、1999(H11)年5月に同ビル8階に移転し、2000(H12)年12月に南一条Kビルに改称している。事務局員は常勤2名で、地盤工学会北海道支部および北海道土木技術会の事務局の業務も兼務している。2019(H31)年に谷澤清治事務局長が退任し、白鳥なおみ事務局長が着任した。支部の事務局員は表1.4のとおりである。

表 1.4 北海道支部の事務局員

任 期	事務局長	任 期	職員
2013(H25)～ 2019(H31)	谷澤 清治	1991(H3)～	林 美和子
2019(H31)～	白鳥なおみ		

(4) 支部の記念事業

1) 支部創立 80 周年記念事業

北海道支部は 2017(H29)年 10 月で創立 80 周年を迎え、これを記念して 2017(H29)年 11 月 17 日(金)に、大石久和土木学会会長を迎えて「土木学会北海道支部創立 80 周年記念式典」を挙行了。ホテル札幌ガーデンパレスを会場に記念式典、記念講演会、選奨土木遺産認定書授与式、記念祝賀会などの行事が行われた。記念講演は「土木は『社会の安寧』を支持できているのか」と題して大石会長が、「北海道の未来のために我々がすべきこと」と題して岸邦宏北海道大学大学院准教授がそれぞれ行い、参加者は 291 名であった。引き続き行われた記念祝賀会の参加者は 162 名であった。

上記に併せて記念誌を発行した。特集「北海道の防災・減災」と題して、ここ 20 年に北海道で発生した災害を年表上で振り返るとともに、これらに関連した復旧事業、災害対策、技術・研究開発、防災教育などについて取りまとめた。また、防災に尽くした技術者を取り上げその方々の業績、エピソードなどを紹介した。さらに DVD「北海道の冬を生きる－災害を防ぐところと土木技術－」を発行した。

(5) 全国大会

1) 全国大会および年次学術講演会

これまでに北海道支部で開催された全国行事は表 1.5 のとおりである。

2018(H30)年度全国大会は、8 月 29 日(水)から 31 日(金)までの 3 日間、北海道大学をメイン会場として札幌市において開催した。大会のメインテーマを「社会システムのイノベーション創出のために」とし、第 73 回年次学術講演会、研究討論会、基調講演会、特別講演会、全体討論会、交流会、パネル展示、見学会等の各行事を企画実施した。

全国大会行事の概要は以下のとおりである。

第 73 回年次学術講演会を北海道大学内の工学部、高等教育推進機構、情報科学研究棟、フロンティア応用科学研究棟で開催した。講演総数は 4,039 題、延べ参加者数 21,352 名だった。

研究討論会を北海道大学で開催した。討論会題数は 14 題、参加者数は 1,340 名だった。

基調講演会・特別講演会をかでの 2・7 で開催した。講演数は 2 題、参加者数は 845 名、講演会に先立ち、アンサンブルシヴィル演奏とアイヌ古式舞踊演舞が行われた。

全体討論会をかでの 2・7 で開催した。参加者数は 640 名だった。

交流会を京王プラザホテル札幌で開催した。参加者数は 541 名だった。

国際関連行事を北海道大学等で開催した。参加者数は 203 名だった。

映画会を北海道大学で開催した。参加者数は 252 名だった。

その他(カッコ内は開催場所)

a) 広報関連行事：ベスト・イノベーター・オブ・土木偉人(北海道大学)

表 1.5 北海道支部で開催された全国行事

1957	第 43 回通常総会および第 12 回年次学術講演会			
1966	第 52 回	〃	第 21 回	〃
1973	昭和 48 年度全国大会および第 28 回年次学術講演会			
1980	昭和 55 年度	〃	第 35 回	〃
1987	昭和 62 年度	〃	第 42 回	〃
1994	平成 6 年度	〃	第 49 回	〃
2002	平成 14 年度	〃	第 57 回	〃
2010	平成 22 年度	〃	第 65 回	〃
2018	平成 30 年度	〃	第 73 回	〃

- b) パネル展示：チ・カ・ホ（札幌駅前通地下広場）
- c) 見学会：半日コース（余市 IC～小樽 JCT 間新設工事，石狩湾新港），1 日コース（豊平川水道水源水質保全事業，王子製紙千歳第 1 発電所，苫小牧港西港区，寒地土木研究所）
- d) 2018 年 7 月西日本豪雨災害調査団報告会（北海道大学）

(6) 災害対応

2014(H26)年度以降に北海道で発生した大規模な災害として，2016 年 8 月北海道豪雨災害と 2018 年 9 月北海道胆振東部地震が挙げられる。

1) 2016 年 8 月北海道豪雨災害

2016(H28)年 8 月 17 日から 8 月 23 日の 1 週間に 7 号，11 号，9 号の 3 個の台風が続々と北海道に上陸し，北海道東部を中心に大雨により河川の氾濫や土砂災害が発生した。また，8 月 29 日からの前線と台風 10 号の接近による大雨で十勝川水系や石狩川水系・空知川上流で堤防の決壊や河川のはん濫，日高山脈東側での道路や橋梁の流失などが相次ぎ，大きな災害となった。

この災害に対し，土木学会水工学委員会では 2016 年 8 月北海道豪雨災害調査団（団長：清水康行北海道大学教授）を結成し，災害調査を行った。調査団の構成は表 1.6 のとおりで，北海道支部に所属する会員も多数参加した。

報告会は水工学委員会の主催で行われた。まず緊急報告会が 2016(H28)年 9 月 29 日に北海道大学学術交流会館大講堂で行われた。2017(H29)年 4 月 20 日には土木学会調査団報告会 in 帯広が帯広・とちかちプラザで開催され 266 名が参加し，直後に報告書が水工学委員会から公表された。同年 6 月 8 日には土木学会調査団報告会 in 札幌が札幌エルプラザ大ホールで開催され 309 名が参加した。また，東京では土木学会減災・防災委員会的主催で，平成 28 年 8 月北海道豪雨災害と復旧状況等に関する報告会が 4 月 13 日に土木学会講堂で行われ，100 名を超える参加があった。

2) 2018 年 9 月北海道胆振東部地震

2018(H30)年 9 月 6 日午前 3 時 7 分頃，北海道胆振地方中東部を震源とする気象庁マグニチュード M6.7 の地震が発生し，厚真町では北海道で初めて震度 7 を記録した。震源近傍の厚真町を中心に，土石流等とがけ崩れが 227 件発生した。また，札幌市などでも液状化により多数の住家や道路の被害が発生した。ライフラインでは北海道電力苫東厚真発電所や送電設備の被害により，北海道全域で約 295 万戸が停電するブラックアウトが発生した。

土木学会地震工学委員会は 9 月 9 日に先遣隊を派遣して調査を開始した。また，9 月 12 日に北海道支部は地盤工学会と合同で，2018 年 9 月北海道胆振東部地震災害緊急合同調査団を結成し，9 月 14 日

表 1.6 土木学会水工学委員会「2016 年 8 月北海道豪雨災害調査団」の構成（同調査団報告書より）

土木学会 水工学委員会		
調査団員一覧（団長・幹事・団員（五十音順））		
団長	清水 康行	北海道大学大学院 工学研究院
幹事	中津川 誠	室蘭工業大学大学院 工学研究科
	石田 義明	㈱水工技研 技術部
	泉 典洋	北海道大学大学院 工学研究院
	今井 素生	日本工営㈱ 札幌支店
	川口 貴之	北見工業大学 工学部
	川尻 峻三	北見工業大学 工学部
	川村 育男	㈱建設技術研究所 北海道河川室
	木村 一郎	北海道大学大学院 工学研究院
	久加 朋子	北海道大学大学院 工学研究院
	田中 岳	北海道大学大学院 工学研究院
	西村 聡	北海道大学大学院 工学研究院
	早川 博	北見工業大学 工学部
	船木 淳悟	国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所
	松岡 直基	一般財団法人 日本気象協会 北海道支社
	山崎 睦史	㈱ドーコン 河川部
	山田 朋人	北海道大学大学院 工学研究院
	Adriano Coutinho de Lima	北海道大学大学院 工学研究院
	渡邊 康玄	北見工業大学 工学部

から先遣隊による現地調査を開始した。調査団の構成は表 1.7 のとおりである。

表 1.7 土木学会北海道支部・地盤工学会「2018 年 9 月北海道胆振東部地震災害緊急合同調査団」の構成

役職	氏名	所属・役職
団長	木幡 行宏	室蘭工業大学 教授
副団長	今 日出人	北海道大学大学院工学研究院 特任教授
地盤部門	石川 達也	北海道大学公共政策大学院 教授
地盤部門	川村 志麻	室蘭工業大学 准教授
地震部門	松本 高志	北海道大学大学院工学研究院 教授
地震部門	蟹江 俊仁	北海道大学大学院工学研究院 教授
洪水・風水害部門	渡邊 康玄	北見工業大学 教授
洪水・風水害部門	川村 里実	寒地土木研究所寒地河川チーム 主任研究員
交通部門	萩原 亨	北海道大学大学院工学研究院 教授
港湾・海岸部門	山本 泰司	北海道科学大学工学部都市環境学科 教授
幹事長	山越 明博	北海道開発局
幹事	木原 俊哉	北海道
幹事	茂木 秀則	札幌市

また、土木学会本部は部門・委員会及び支部における調査団の結成や調査活動の連携を円滑化するとともに、調査結果等の情報収集・公表を一元化するために対策本部（本部長 塚田幸広専務理事）を設置し、10月2日には小林潔司会長が被災現場を視察した。

報告会はまず地震工学委員会の被害調査速報会が9月21日に東京電機大東京千住キャンパスで行われた。土木学会北海道支部の合同調査団の報告会は、第1回が12月15日に北海道大学学術交流会館小講堂で参加者151名、第2回が2019(H31)年1月27日に苫小牧工業高等専門学校にて参加者145名で行われた。発災1年後の2019(R1)年9月6日には地震工学委員会が2018年北海道胆振東部地震被害調査報告書を出版し、講習会が東京の筑波大学東京キャンパス文京校舎で開催された。12月16日には札幌の寒地土木研究所で同様の講習会が開催された。

(7) 北海道支部の事業

支部事業の主なものは以下のとおりである。

1) 論文報告集の刊行と年次技術研究発表会の開催

支部刊行の論文報告集に掲載された論文および報文を通常毎年1月下旬から2月上旬の発表会において発表している。発表会はこれまで札幌と道内各市（室蘭市・北見市・苫小牧市・函館市）で隔年開催していたが、2020(R2)、2021(R3)年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催となった。2014(H26)年度以降の論文報告集の号数、申し込み件数、発表年月、発表会の開催市、会場などは表 1.8 のとおりである。

表 1.8 論文報告集の刊行

年 度	号 数	投稿数	発表年月	開催市	会 場
2014	第 71 号	214 件	2015.1	室蘭市	室蘭工業大学
2015	第 72 号	207 件	2016.1	札幌市	北海道大学工学部
2016	第 73 号	202 件	2017.2	北見市	北見工業大学
2017	第 74 号	209 件	2018.1	札幌市	北海道大学工学部
2018	第 75 号	189 件	2019.1	苫小牧市	苫小牧工業高等専門学校
2019	第 76 号	172 件	2020.1	札幌市	北海道立道民活動センター かでる 2・7
2020	第 77 号	151 件	2021.1	札幌市	オンライン（紙上+オンデマンド発表）
2021	第 78 号	135 件	2022.1	札幌市	オンライン（Zoom によるリアルタイム開催）
2022	第 79 号	160 件	2023.1	札幌市	北海道立道民活動センター かでる 2・7
2023	第 80 号	150 件	2024.1	札幌市	北海道立道民活動センター かでる 2・7

2) 支部奨励賞

1960(S35)年度より毎年度授与している。2014(H26)年度以降の受賞人数と受賞者氏名は表 1.9 のとおり。

表 1.9 支部奨励賞受賞者

年 度	受賞人数	受賞者氏名			
2014	3 人	長岡 宏樹	上野 千草	齊藤 進	
2015	3 人	西城能利雄	金子 弘幸	井谷 雅司	
2016	2 人	近藤 健太	井元 俊介		
2017	2 人	寺澤 貴裕	伊波 友生		
2018	1 人	瓦井 智貴			
2019	3 人	Arslan Qayyum KHA	岩渕 直	佐々木章允	
2020	3 人	Chi Hieu MA	山田 嵩	大橋 一仁	
2021	3 人	石原 寛也	大屋 祐太	中村 裕貴	
2022	4 人	Nghi Huu DUONG	竹口 祐二	坂本 宣	堀田 友基
2023	3 人	Xin LUO	平沢 陽子	菊地 晃平	

3) 支部技術賞

1977(S52)年度より毎年度授与している。2014(H26)年度以降の受賞件数および受賞対象は表 1.10 のとおり。

表 1.10 支部技術賞の受賞対象

年 度	受賞対象
2014	1) 防水型トンネルによるヒカリゴケ生育環境保全について ～道道知床公園羅臼線交付金工事（トンネル工）（債務）～
	2) 網走湖塩淡水境界層制御施設網走川水系網走川大曲堰
	3) 施設整備事業の内配水施設 国庫補助事業 平岸配水池耐震改修工事（No. 1 池）
2015	1) 一般国道 40 号更喜苔内防雪
	2) 段階整備を可能とする防波堤整備工法の開発
	3) 夕張シューパロダム建設事業
	4) 再生可能エネルギー導入拡大に貢献する水力発電所の再開発（新岩松発電所新設工事）

2016	1) 旭川十勝道路 富良野道路北の峰トンネル
	2) 樽前山直轄火山砂防事業
	3) 寒冷地における国内最大級の地上式 PCLNG タンク（主要土木工事）の設計・施工（石狩湾新港発電所1号機新設工事 石狩 LNG 基地No. 3貯槽）
2017	1) 発電所沖合約1kmの海底に設置される放水口および放水口に接続する放水路トンネル他の設計・施工（石狩湾新港発電所 放水設備）
	2) 国道274号日勝峠災害復旧事業及び道東自動車道の早期交通確保
	3) 経済的な軟弱地盤対策工法（グラベル基礎補強併用低改良率地盤改良）の開発
2018	1) 吹雪時の交通判断を支援する「吹雪の視界情報」予測技術の開発
	2) 後志自動車道（余市～小樽JCT間）の整備事業
2019	1) サンプルダム建設事業
	2) 白川第3送水管新設事業 第2期事業
2020	1) 平成30年北海道胆振東部地震により被災した札幌市清田区里塚地区における市街地復旧事業
	2) 千歳川遊水地群
	3) 羽幌港における離島フェリー動揺対策
2021	1) 水力発電所再開発計画における発電所基礎他の設計と施工（新得発電所新設工事）
	2) 釧路湿原自然再生事業 久著呂川湿原流入部土砂調整地
2022	1) 函館港クルーズターミナル整備事業
	2) 準天頂衛星システムを活用したロータリ除雪車の自動化の開発
2023	1) 沙流川総合開発事業（平取ダム）

4) 支部功労賞

1997(H9)年度より毎年度授与している。2014(H26)年度以降の受賞者は表 1.11 のとおり。

表 1.11 支部功労賞の受賞者

年 度	受賞者数	受賞者氏名					
2014	1 名	吉田 紘一					
2015	2 名	平野 道夫	鈴木 輝之				
2016	3 名	大沼 博志	大島 俊之	高橋 喜一			
2017	2 名	加賀屋誠一	金澤 義輝				
2018	6 名	三浦 清一	中村 興一	百瀬 治	三上 隆	中野 淑文	服部 健作
2019	4 名	岸 徳光	林川 俊郎	吉野 伸一	鈴木 英一		
2020	1 名	御坊田裕己					
2021	2 名	神保 正義	一條 昌幸				
2022	2 名	川村 和幸	岡田 正之				
2023	1 名	徳長 政光					

5) 支部地域活動賞

2007(H19)年度より毎年度授与している。2014(H26)年度以降の受賞件数および受賞対象は表 1.12 のとおり。

表 1.12 支部地域活動賞の受賞対象

年 度	受賞対象
2014	1) NPO 法人 スプリングボードユニティ 2 1
2015	1) しれとこ・ウトロフォーラム 2 1
2016	1) 特定非営利法人 十勝多自然ネット
	2) 北海道標茶高校
2017	1) 特定非営利活動法人 WAO ニセコ羊蹄発見の会
	2) 江別市立野幌中学校 陸上部・女子ソフトテニス部
2018	1) みなとオアシスもんべつ運営協議会
	2) 北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部厚幌ダム建設事務所
2019	1) NPO 法人 まち・川づくりサポートセンター
	2) R o s e h i p s
	3) 駒生川ワークショップ
2020	1) 港文館倶楽部
2021	1) 釧路・リバー・プロテクション 2 1 の会
2022	1) 苫前町まちづくり企画
	2) 東日本高速道路（株）北海道支社
2023	1) 増毛町

6) その他（講習会、講演会および講演と映画の集いなど）

講習会は 2～3 回，講演会 1～2 回，講演と映画の集い 1 回程度などを実施している。

7) 土木の日の行事

「土木の日」の関連事業として，一般市民対象（親子）現場見学会，小・中・高校教諭対象現場見学会，選奨土木遺産認定書授賞式，記念シンポジウム，講演会，映画会，パネルディスカッション，地方事業（北見地区，苫小牧地区，室蘭地区，函館地区）などを実施している。

2. 東北支部（2015～2024）

（1）支部設立経緯と組織など

東北支部は 2024 年に設立 87 周年を迎える。東北 6 県（青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県）。2024 年 3 月末現在の会員数は正会員 1,533 名（うちフェロー会員 64 名含）・学生会員 279 名・法人会員 50 団体となっている。

2024 年現在の支部は，支部長 1 名・副支部長 2 名・幹事長 1 名・副幹事長 3 名・商議員 43 名・監査役 2 名・幹事 57 名の体制である。支部長の選出は，官・学・民の持ち回りとしている。2015 年からの支部長・幹事長一覧を表 2.2 に示す。職員は事務局員 1 名・非常勤事務局員 1 名で，2010 年より地盤工学会東北支部の事務局を兼務。

事務局は旧仙台高等工業学校，そして旧建設省東北地方建設局の一部を借用してきたが，1967 年 4 月から仙台市二日町の九七ビルに独立事務所を設け，更に 1973 年 11 月に現在の同町北四ビルに移転した。東日本大震災を機に 2013 年 6 月には仙台市青葉区本町オーク仙台ビル（2024 年 9 月 NL 仙台広瀬通ビルに改名）に移転し，現在に至っている。

表 2.1 東北支部事務局員一覧（2015～2024）

年 度	事務局長	年 度	職員（*非常勤）
2011～	千田 喜美	2015～2016	須藤 良清*・後藤 博子*
		2017	後藤 博子*
		2018	星 博美*
		2019～2021	木村沙綺子*
		2023～	原田 美香*

表 2.2 東北支部歴代支部長・副支部長・幹事長一覧（2019 年度より副支部長設置）

年 度	機関	支部長	副支部長	副支部長	幹事長
2015	国土交通省東北地方整備局	縄田 正 川瀧 弘之			安田 吾郎 鈴木 研司
2016	国土交通省東北地方整備局	川瀧 弘之			鈴木 研司 渡邊 泰也
2017	東北電力株式会社	藤原 正雄			村野清一郎 大宮 宏之
2018	東北大学	田中 仁			寺田賢二郎
2019	独立行政法人鉄道運輸機構	中村 敦	飛田 善雄 (東北学院大学)	高田 一尚 谷口 俊一 (JR 東北工事事務所)	伊藤 勝美 (鉄道運輸機構) 森山 智明 (JR 東北工事事務所)
2020	国土交通省東北地方整備局	佐藤 克英 梅野 修一	佐藤 達也 (宮城県)	高橋 敏彦 (東北工業大学)	西尾 崇 角湯 克典 (東北地整)
2021	東北大学	京谷 孝史	徳永 幸之 (宮城大学)	遠藤 敏雄 (復建技術コンサルタント)	風間 聡 (東北大学)
2022	東日本高速道路株式会社東北支社	八木 茂樹 田仲 博幸	林 圭一 (日建連)	石川 雅美 (東北学院大学)	上田 功 稲垣 隆一 (NEXCO)
2023	東北大学	奥村 誠	須藤 敦史 (東北工業大学)	北川 豊 田口 浩己 (鹿島建設)	越村 俊一 (東北大学)
2024	国土交通省東北地方整備局	山本 巧 西村 拓	反畑 勇樹 (仙台市)	宮原 育子 (宮城女子学院大学)	宮本 健也 (東北地整)

支部運営にあたっては、2018 年から 3 年をかけ組織変更を行い、現体制となっている（図 2.1, 図 2.2）。総会・役員会・支部運営会議・商議員会・総務企画会議・幹事会などを開催し、事業推進のための検討・企画を行うとともに、幹事会を三部会制（総務部会・土木の日行事部会・継続教育部会）にし、「技術研究発表会」「講演会」「見学会」など各種行事等を企画・運営している。また、2023 年より東北インフラマネジメント委員会新設。各種委員会により、表彰選考や時々の課題等への対応を行っている。これらの取り組みを通じて、会員相互の交流・技術の研鑽を図るとともに、調査研究の実施のほか、土木事業

について一般市民に対する PR 等を積極的に実施している。

ここでは、土木学会設立 100 周年 (2014 年) 記念誌以降の 10 年間における支部活動の概要を述べる。

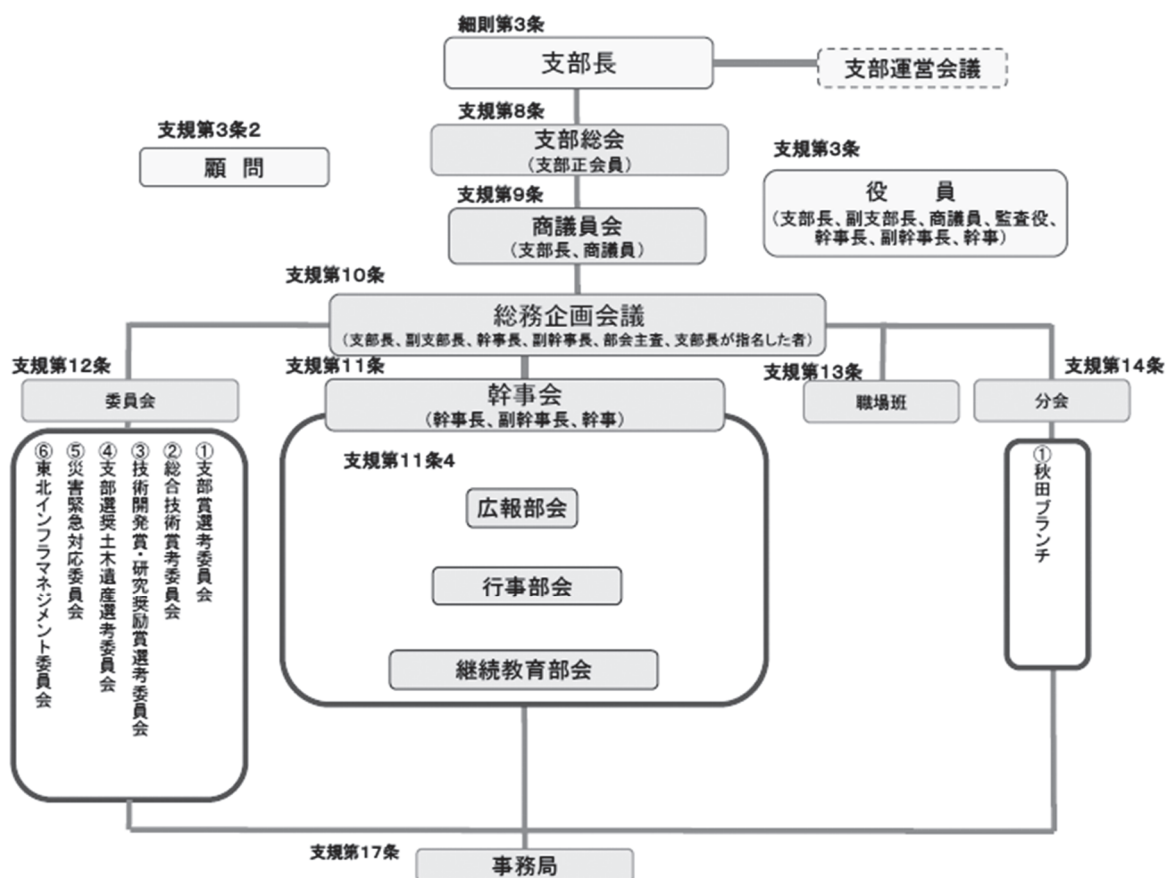


図 2.1 東北支部支部部会・委員会構成

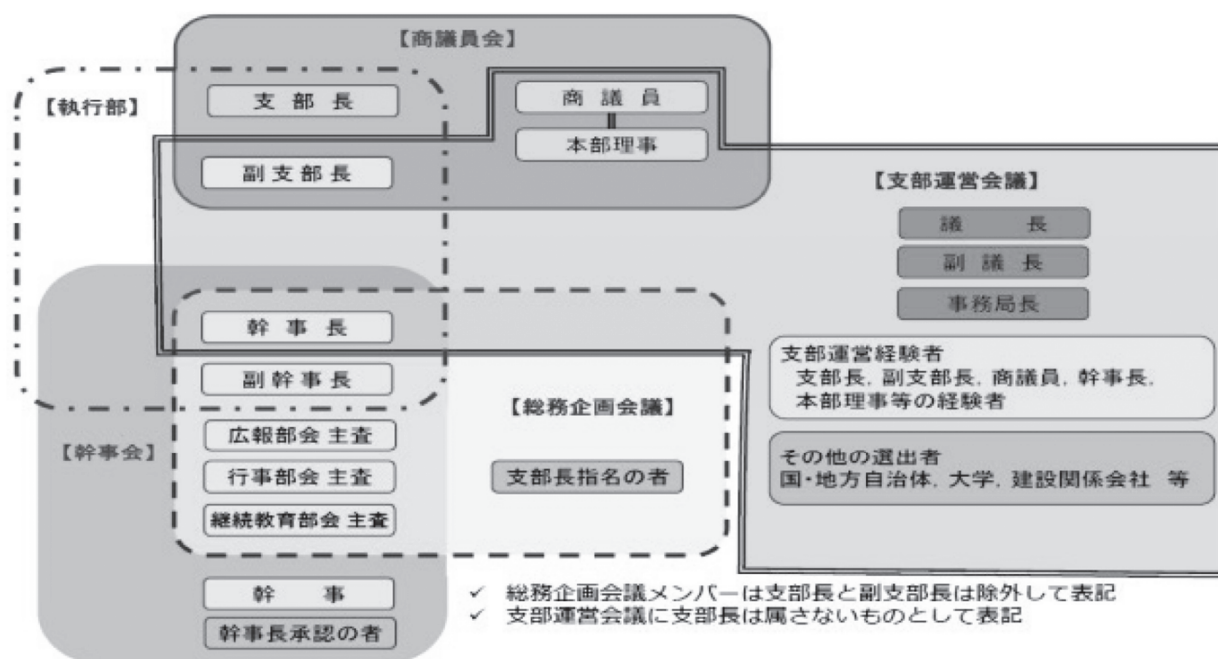


図 2.2 土木学会東北支部の各組織と構成員配置

(2) 支部活動

1) 支部設立 80 周年記念事業

2017 年 11 月には東北支部設立 80 周年を迎え、記念誌の発行と記念式典を行った。記念誌は 20 周年、40 周年、60 周年と、それまでの東北地方における 20 年分の土木事業の記録をまとめて来たことを踏襲して、1997 年～2017 年の 20 年間について「東北の土木」の記録をとりまとめて刊行した。この 20 年間は、公共インフラの経年化に伴う課題の顕在化、情報通信技術の活用による情報化施工の導入、そして 2013 年 3 月の東日本大震災による甚大な被害を受け、復旧・復興に多大な力を注いできており、東北における社会資本整備への貢献と高度な土木技術の発展、復興の足跡を収録している。また、記念式典は設立 80 周年の節目を迎えるに当たり過去 80 年間の学会活動を振り返ると共に今後の事業展開の尚一層の努力展を誓い合うものとして、支部活動における功労者の表彰と下記の行事を展開した。

記念シンポジウム（※土木の日関連行事合同開催） 2017 年 12 月 9 日

仙台国際センター写真展（日本建設業連合会東北支部と共催企画／土木の日関連行事合同開催）

2017 年 12 月 5 日～10 日

電力ビルグリーンプラザ

どぼく＋マンガ展（協力：東北学院大学工学部） 2017 年 11 月 3 日～11 月 26 日 多賀城図書館

ダムカレー施工体験とダムカードの解説 2017 年 11 月 23 日 多賀城図書館

建設 IoT 紹介（測量協会による測量機械の展示） 2017 年 11 月 25 日 多賀城図書館

絵本読み聞かせ 2017 年 11 月 26 日 多賀城図書館

2) 研究発表会・講習会など

①技術研究発表会

技術研究発表会は 1951 年より開催してきており、支部行事の中でも中心的事業となっている。例年 3 月上旬に東北 6 県の各大学を会場に持ち回りで開催している（表 2.3）。約 230～400 件の発表があり、聴講者を含めると約 450～500 名の参加がある。2015 年度より高校生の講演も行っている。新型コロナウイルス感染症拡大防止によるオンライン開催以降は発表件数が減少している。

表 2.3 技術研究発表会応募状況（※オンライン開催）

年 度	2015	2016	2017	2018	2019	2020※	2021※	2022※	2023	2024
実施校	岩手大学	東北工業大学	日本大学	東北大学	秋田大学	東北学院大学	八戸工業大学	東北工業大学	岩手大学	東北大学
講演件数	245	401	358	411	418	333	289	264	231	238
高校生の講演件数	6	12	11	7	7	8	6	4	4	2
計	431	413	369	418	425	341	295	268	235	238

②シンポジウム

土木学会東北支部では、インフラの維持管理の重要性を象徴するものとして道路橋の現状に焦点をあて、その補修方法や維持管理技術の開発を目的とする「橋梁保全シンポジウム」を過去 10 年に亘り開催（表 2.4）。しかし、インフラの老朽化に伴う機能低下は、橋梁以外にも、トンネル、上下水道、河川

堤防など、様々な土木構造物で生じており、これらの劣化に対処するためには、インフラを捉える視野を広く持ち、包摂的な立場から対応することが不可欠となり、このような状況を踏まえ、土木学会本部では、インフラ全体に亘る劣化をこの国の重要なリスクと捉え、現状および課題を整理し、解決策を模索するための委員会を設置し、積極的に活動を推進。また、2016年11月に発足したインフラ・メンテナンス国民会議は、総務省「インフラ長寿命化基本計画」に基づき、インフラ全般についての革新的技術の社会実装、企業等の連携の促進、地方自治体の支援、市民参画などを活動目的として、東北地方でも東北フォーラムを活動の中心として積極的に取組みを進め、これらに呼応する形で、東北支部としても、橋梁を対象とした「橋梁保全シンポジウム」を発展的に解消し、2021年度より「インフラマネジメントシンポジウム」（表2.5）を開催することとし、東日本大震災からの震災・復興10年目の節目を東北地方の重要なターニングポイントと位置づけ、インフラマネジメントシンポジウムを新しい東北を創生するためのインフラのありかたを発信する場とし、多くの機関との融合も図っていききたいと考え、基調講演およびパネルディスカッションを実施し情報発信・交換を行うもので、毎年約300名の参加者がある（表2.5）。

表2.4 東北地方の橋梁保全に関するシンポジウムのテーマ

年度	開催日	テーマ	参加人数	開催場所
2015	1月22日	「産官学」総力戦の現状と課題	430	仙台市情報・産業プラザ
2016	1月30日	各地域でのインフラ維持管理の取組みと広域連携の可能性	500	仙台市情報・産業プラザ
2017	1月30日	インフラ・メンテナンスの最新動向	360	仙台国際センター
2018	1月30日	橋梁保全シンポジウムの10年の歩みとこれから	308	仙台国際センター

表2.5 インフラマネジメントシンポジウムのテーマ

年度	開催日	テーマ	参加人数	開催場所
2020	11月12日	インフラマネジメントシンポジウム2020 ～復興から新しい東北のインフラ創生へ～	229	オンライン開催
2021	11月8日	インフラマネジメントシンポジウム2021 ～復興から新しい東北のインフラ創生へ～	230	オンライン開催
2022	11月11日	インフラマネジメントシンポジウム2022 ～地域を支える地元建設産業界の取り組み～	会場56 WEB183 計239	ハイブリット開催 会場：仙台国際センター
2023	11月9日	インフラマネジメントシンポジウム2023 ～自治体が抱える維持管理業務に関する課題～	会場123 WEB156 計279	ハイブリット開催 会場：仙台市中小企業活性化センター
2024	11月7日	インフラマネジメントシンポジウム2024 ～民間事業会社のメンテナンスの取り組み～	会場 WEB 計	ハイブリット開催 会場：東北学院大学土樋キャンパス ホーイ記念館ホール

③現場見学会

1988（昭和63）年より、土木技術者の技術の研鑽および一般市民の方への広報啓発活動の一環として現場見学会を開催している（表2.6）。

表 2.6 現場見学会のテーマ

年度	開催日	テーマ	参加人数
2015	10月7日	東北電力株式会社女川原子力発電所	40
2016	6月17日	仙台湾南部海岸堤防復旧プロジェクト 深沼南工区井戸浦地区堤防復旧工事 ※若手技術者交流サロン合同開催	90
2017	10月4日	気仙沼大島架橋工事」および「三陸沿岸道路気仙沼湾横断橋工事	44
2018	9月12日	福島第一原子力発電所廃炉作業・福島第二原子力発電所	34
2019	9月11日	(仮称) 気仙沼湾横断橋・三陸沿岸道路 釜石鶴住居復興スタジアム	27
2020	-	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	-
2021	-	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	-
2022	10月28日	成瀬ダム（共催：地盤工学会東北支部）	15
2023		山形新幹線福島駅上りアプローチ線新設工事 24 名	24
	11月27日	国道 349 号丸森地区災害復旧事業（仮称）第 3 号トンネル工事 （共催：地盤工学会東北支部）	25

④コンクリート技術講習会

コンクリート標準示方書の改訂に際し、示方書の内容の解説を中心とした技術講習会を開催している。

3) 調査活動

2015 年 9 月関東・東北豪雨により、関東地方から東北地方にかけて大きな被害をもたらし、このような事態を受け、土木学会では水工学・地盤工学等の専門家による調査団を発足させ、調査・解析を行い、東北グループの調査報告書に取り纏めた。

2016 年 8 月 30 日に東北に上陸した台風 10 号により東北地域において洪水、土砂、高潮災害が発生しました。土木学会では、学術的観点から、被害箇所・状況について現地調査を実施するため、土木学会東北支部、水工学委員会を中心とした専門家による調査団（団長：小笠原敏記、岩手大学）を発足し、同年 9 月 7 日に台風 10 号水害調査団緊急報告会を行った。

2017 年 7 月 22 日から 23 日にかけての記録的な豪雨により秋田県では各地で洪水や土砂災害が発生、特に 1 級河川の雄物川の本川をはじめ、そこに流入する小さな支川においては甚大な被害をもたらし、土木学会水工学委員会、東北支部による調査団を設置し、被害箇所、被害状況等について緊急調査を実施した。

令和元年年 10 月に発生した台風 19 号（東日本台風）は、12 日から 13 日にかけて関東甲信越地方から東北地方を縦断し、降雨量・流量について既往最大を記録した箇所も多く見られ、各地に大きな豪雨災害をもたらした。このうち、東北地方においては福島・宮城・岩手各県において大規模な堤防決壊・土砂崩れなどを伴う大きな被害が発生した。土木学会水工学委員会水害対策小委員会では被災直後に各所に調査団を派遣された。それに連携し、東支部は、東北大学および各学会東北支部と「2019 年台風第 19 号災害に関する東北学術合同調査団」を設置、調査・報告会等を行った。（詳細は、(7)その他 1) 災害時における調査の相互協力に関する協定に記載）

2022 年 3 月 16 日深夜に発生した福島県沖の地震の被害について、土木学会・地盤工学会で調査した結果の速報会を（公社）地盤工学会東北支部と共催で同年 4 月 21 日行った。

4) 全国大会

2015 年から 2024 年における東北支部での全国大会の開催は、2016 年と 2024 年に開催している。

2016 年の開催では、大会テーマを「復興、そして創生へ」～土木の力で地域を元気に～と題し、9 月

7日～9月9日（3日間）、仙台国際センター及び東北大学川内北キャンパスをメイン会場に、東日本大震災から5年を迎え、インフラの復旧・復興が順調に進み、震災直後からの様々な課題・教訓が明らかとなる中で、被災地の「今」と「これから」について取り上げ開催している。

前回大会から8年振りとなる2024年（本年）の開催では、初の女性会長となる第112代土木学会会長（佐々木葉早稲田大学教授）の下、大会テーマを「自然とくらしの奥深き風景をつくる土木へ」と題し、仙台国際センター及び東北大学川内南／北キャンパスを主会場として開催した。

2024大会の「テーマ」は、近代以降、人類は競い合うように様々な技術を発展させ、高度で効率的な社会・経済を目指し、これを構築・その恩恵を享受。その一方、近年では自然との共生・調和が重視され、個性や価値観の多様性の尊重が重視される社会に変化しており、真っすぐに技術の発展だけを目指すのではなく、自然と人々のくらしが調和し、懐かしくもあり、温かみのある奥深い風景をつくっていくこと、それが「土木の奥深さ」であり、その「土木の奥深さ」を取り上げ、開催している。

大会の主な行事では、大会3日目となる9月4日、大会実行委員長（西村東北地方整備局長）の開会の挨拶を皮切りに、佐々木会長による基調講演「土木を風景から考える」が行われ、つづいて岡崎正信氏（株式会社オガール代表取締役）による「営生権を与える土木とは」と題し特別講演が行われ、続けて「奥深い風景づくりとインフラ（復興からの学び）」をテーマに、コーディネーターの奥村誠教授（東北大）の進行の下、5名のパネリストを迎え全体討論会を開催。約800名を超える会場参加者（聴講者）を記録している。

翌日（5日～6日）に開催された第79回年次学術講演会では、これまでの最高となる発表論題数4,509題を記録。当初計画した川内北キャンパス単独での開催が困難となり、川内南キャンパスを会場として加え対応を図った。なお、本学術講演会への参加者（講演者及び聴講者）は、会場受付システム上で11,554名を数えている。（※詳細は「土木学会誌」2025年1月号付録「全国大会報告」を参照願いたい）

5）土木の日関連行事（防災に関するシンポジウム及びパネル展）

2004年より土木の日関連行事として、一般市民への広報啓発を目的とした防災に関するシンポジウムを企画・開催し、2023年度で20回目を迎えた。特に2011年3月11日発生した東日本大震災以降、「東日本大震災と復興」に焦点を当てたシンポジウムを開催している（表2.7）。

表2.7 防災に関するシンポジウム開催状況

年度	開催日	テーマ	参加人数	開催場所
2015	12月6日	地球温暖化に伴う豪雨災害に備える	200	仙台市情報産業プラザ
2016	1月29日	「土木の日」関連行事 北上川改修400年記念～川村孫兵衛シンポジウム 主催：土木学会東北支部 石巻市・国土交通省東北地方整備局	300	石巻専修大学 2016年度防災に関するシンポジウムは中止
2017	12月9日	『先人に学ぶ地を読む力』 ※土木学会東北支部設立80周年記念シンポジウム合同開催	280	仙台国際センター
2018	11月28日	2008年岩手・宮城内陸地震から10年～巨大地盤災害のリスク認識と備えを考える～	160	仙台中小企業活性化センター
2019	12月4日	防災とデータサイエンス ～不確実な災害への対応～	133	トラストシティカンファレンス・仙台
2020	1月27日	東日本大震災と復興 ～得られた経験を未来に繋ぐ～	200	オンライン開催
2021	1月26日	豪雨による地盤・土砂災害	230	オンライン開催

2022	1月24日	気候変動に応じる洪水対策	会場 33 WEB 177 計 210	ハイブリッド開催 中小企業活性化センター
2023	1月11日	東日本大震災から13年 ーいままでの産官学の連携を振り返り、明日の土木分野を語るー	会場 80 WEB 200 計 280	ハイブリッド開催 仙台国際センター
2024	2月28日	令和6年東北豪雨水害調査団報告会と防災への提言		東北大学川内南キャンパス文学系総合講義棟

6) 表彰

①土木遺産選考委員会

2000年に土木学会選奨土木遺産認定制度が創設されたことを受け、東北支部では2001年5月に「東北支部選奨土木遺産選考委員会」を設立し、東北地方における土木遺産の調査研究、支部推薦の選定、認証された遺産の地元への遺産制度の意義説明ならびに地元における土木遺産を活用するための諸活動の支援等を行っている。

②総合技術賞選考委員会・技術開発・研究奨励賞選考委員会

土木学会東北支部では、1993年度から支部の活性化と会員の意識高揚を図るため、3種類の賞を制定し、毎年、支部総会において表彰している。いずれも技術研究発表会において発表された論文の中から選ばれたもので、「総合技術賞」は「東北地方の土木技術の発展に寄与する著しい業績、ならびに東北地方に建設された優れた土木施設あるいは構造物の工事」を対象とし、「技術開発賞」は「優れた独創的土木技術を発表した論文」を、また「研究奨励賞」は36歳未満の若手会員の行った「優れた研究成果を発表した論文」をそれぞれ対象とし、表彰している。なお、2012年度に一部応募基準を見直した。

7) 交流活動

①東北の土木技術を語る会

「東北の土木技術を語る会」は2001年1月より支部の若手の技術者を対象として始まったもので、現在では世代を問わず土木技術者の交流の場になっている。近年は現場見学会と連携し当該テーマの現場見学を行うとともに、同日に識者による講演を行い、その話題を中心に意見交換を行っている。2023年3月までに31回実施している（表2.8）。

表 2.8 東北の土木技術を語る会

年度	開催日	テーマ	参加人数	備考
2015	10月8日	「東北圏広域地方計画」 「土木構造物のメンテナンス」	100	
2016	6月17日	「仙台湾南部海岸堤防復旧プロジェクト」 「深沼南工区井戸浦地区堤防復旧工事」	108	【同日開催】現場見学会
2017	10月5日	「気仙沼大島架橋工事」 「三陸沿岸道路気仙沼湾横断橋工事」	140	
2018	9月13日	「福島第一原子力発電所における廃炉・汚染水対策」	110	
2019	9月11日	「(仮称) 気仙沼湾横断橋・三陸沿岸道路」 「釜石鶴住居復興スタジアム」	110	【同時開催】現場見学会
2020		新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
2021	12月8日	【特別講演】 30回目の開催となる「東北の土木技術を語る会」へ	100	WEB 開催

		の想い 【話題提供】 アフターコロナを見据えたインフラ分野のDXについて（3題）		
2022		新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
2023	12月4日	「山形新幹線福島駅上りアプローチ線新設工事」 「国道349号丸森地区災害復旧事業（仮称）丸森第3号トンネル工事」	55	エル・ソーラ仙台

②土木技術者交流サロン

行政・公共企業体・ゼネコン・コンサルタント・学生など、多様な機関に所属する若手土木技術者の情報交換・意見交換等の場を提供し、若手技術者の交流を促進することを目的に、本部の「100周年記念事業」の一環として2013年度より実施している。各回テーマを定め、学生や各機関からの参加者により自由な発言をもとに意見交換・交流を行っている。また女性を対象とした企画や外部講師を招いた講演会を実施するなど、若手交流の場として定着するよう取り組んでいる。

表 2.9

年度	開催日	テーマ	参加人数	備考
2015	7月10日	技術者交流サロン（女性技術者対象）第1回 テーマ 「土木技術者としての役割とエピソード」＋座談会	27	仙台市情報産業プラザ
	10月9日 ～10日	技術者交流サロン（女性技術者対象）第2回 現場見学会 1日目：東日本大震災大槌町復興事業 2日目：釜石港湾復旧工事現場	9日 32 10日 36	現場見学会
	11月20日	技術者交流サロン（技術者対象）第3回 橋梁視察（広瀬川右岸）・意見交換会	24	国際センター
	12月8日	技術者交流サロン（若手技術者対象）第4回 テーマ 「土木技術者としての役割とエピソード」＋座談会	29	東北大学青葉山キャンパス
	1月29日	技術者交流サロン（女性技術者対象）第5回 テーマ 「土木技術者としての役割とエピソード」＋座談会	37	エル・ソーラ仙台
2016	6月17日	技術者交流サロン（技術者対象）第1回 仙台湾南部海岸堤防復旧プロジェクト 深沼南工区井戸浦地区堤防復旧工事 現場見学会・若手技術者交流サロン合同開催	90	現場見学会
	7月6日	技術者交流サロン（技術者対象）第2回 「仙台ドボクをめぐる」＋座談会	19	四谷用水
	11月18日	技術者交流サロン（技術者対象）第3回 名取川閑上水門災害復旧工事 鳴瀬奥松島大橋耐震補強工事 天王橋上部工復旧工事	39	名取・東松島・石巻
	12月8日	技術者交流サロン（若手技術者対象）第4回 テーマ 「土木技術者としての役割とエピソード」＋座談会	28	東北大学青葉山キャンパス
		技術者交流サロン（女性技術者対象）第5回 テーマ 「土木技術者としての役割とエピソード」＋座談会	26	エル・ソーラ仙台
2017	7月21日 ～22日	技術者交流サロン（女性技術者対象）第1回 1日目：東北中央自動車道（南陽高畠～山形上山間）工事	43	山形県

		2日目：玉川第二発電所建設工事		
	10月29日	技術者交流サロン（若手技術者対象）第2回 80周年記念事業合同開催 多賀城跡を中心とした散策 話題提供 ・「奥松島と運河」 ・「ドボクが造る都市の歴史～多賀城の歴史を地形で紐解こう～」	講演 12 町歩き 8	多賀城市
	11月17日	技術者交流サロン（女性技術者対象）第3回 東北中央自動車道 相馬福島道路 相馬西道路 塩手山トンネルおよび今田高架橋工事	36	現場見学会
	1月12日	技術者交流サロン（女性技術者対象）第4回 テーマ 「土木技術者としての役割とエピソード」＋座談会	23	オーク仙台ビル貸会議室
	1月17日	技術者交流サロン（若手技術者対象）第5回 テーマ 「土木技術者としての役割とエピソード」＋座談会	26	東北大学青葉山キャンパス
2018	7月25日 ～26日	技術者交流サロン（女性技術者対象）第1回 1日目：女川原子力発電所 2日目：気仙沼線津谷川B新設工事・中島地区海岸災害旧工事(その2)	25日 29 26日 31	現場見学会
	10月27日	技術者交流サロン（一般対象）第2回 全国運河サミット スタディツアー「土木遺産と運河を学ぶ」に講師派遣 (西脇千瀬幹事)	-	
	11月1日	技術者交流サロン（女性技術者対象）第3回 一関遊水地事業長島水門および舞水水門 気仙沼湾横断橋	21	現場見学会
	12月21日	技術者交流サロン（若手技術者対象）第4回 テーマ 「土木技術者としての役割とエピソード」＋座談会	24	東北大学青葉山キャンパス
	1月11日	技術者交流サロン（女性技術者対象）第5回 テーマ 「土木技術者としての役割とエピソード」＋座談会	20	エル・パーク仙
2019	8月29日 ～30日	技術者交流サロン（女性技術者対象）第1回 1日目：築川ダム現場 2日目：東北地方整備局八戸港湾・空港整備事務所現場、 NEXCO 東日本 平泉スマート IC	29日 30 30日 29	現場見学会
	9月12日	土木技術者の交流サロン（土木技術者対象）第2回 復興の道しるべ～三陸鉄道北リアス線震災復旧工事」 上映および工事関係者の解説	120	TKP ガーデンシティ仙台
		技術者交流サロン（女性技術者対象）第3回 台風19号のため中止	-	-
	1月31日	技術者交流サロン（若手技術者対象）第4回 テーマ：土木技術者としての役割とエピソード	20	東北大学青葉山キャンパス
2020	12月8日	技術者交流サロン（女性技術者対象） 小名浜港東港地区航路・泊地（-16m）浚渫工事現場	100	オンライン見学会 ※7 機関共催事業
2021	10月20日	技術者交流サロン（女性技術者対象）第1回 成瀬ダム工事事務所工事現場	約 140	オンライン見学会 ※7 機関共催事業
2022	6月18日	土木技術者の交流サロン（女性土木技術者対象）第1回 東日本大震災遺構見学会（名取市・仙台市）・意見交換会	18	現場見学会
	3月16日	土木技術者の交流サロン（女性土木技術者対象）第2回 東日本大震災遺構見学会（名取市・仙台市）	25	現場見学会 ※7 機関共催事業

2023	6月16日	土木技術者の交流サロン（土木技術者対象）第1回 テーマ 2024年問題に向けた働き方改革の推進」利益向上と社員のやりがい向上の相乗効果	会場 17 WEB 29 計 46	ハイブリッド開催 会場：エル・ソーラ仙台
	1月12日	土木技術者の交流サロン（若手土木技術者対象）第2回 テーマ 「土木技術者としての役割とエピソード」＋座談会	27	復建技術コンサルタント会議室
	2月22日	土木技術者の交流サロン（女性土木技術者対象）第3回 東京電力福島第1原子力発電所	35	現場見学会
	3月22日	土木技術者の交流サロン（女性土木技術者対象）第4回 東日本大震災遺構見学（東松島市）	25	現場見学会
2024	9月4日～6日	土木技術者交流サロン その1 ドボジョとあなたが選ぶ「東北の土木施設」ナンバーワン！（アンケート）	回答数 665	
	9月4日	土木技術者交流サロン その2 せんだいセントラルパーク・ガイドツアー 散策企画（東西線広瀬川橋梁・大橋・愛宕下導トンネル跡・広瀬川河床当）	7	
	12月4日	技術者交流サロン（現場見学会） 千五沢ダム（仮称）五枚沢2号トンネル	32	現場見学会

※1 7 機関共催構成機関：国土交通省東北地方整備局・（公社）土木学会東北支部・（公社）日本技術士会東北本部・
（一社）日本建設業連合会東北支部・（一社）土木技術者女性の会東日本支部・
（公社）地盤工学会東北支部・（一社）建設コンサルタンツ協会東北支部・
（一社）日本橋梁建設協会東北事務所

8) その他

①災害時における調査の相互協力に関する協定

2007年3月に国土交通省東北地方整備局と「災害時における調査の相互協力に関する協定」を3学会合同（土木学会東北支部・地盤工学会東北支部および日本地すべり学会東北支部）で締結した。この相互協力協定の締結は、その後の本部および支部による同種の協定締結の先駆けとなったものである。

2019年台風第19号災害に関する東北学術合同調査団

構成機関：（公社）土木学会東北支部、（公社）地盤工学会東北支部、（公社）日本地すべり学会各東北支部
東北大学災害科学国際研究所

速報会・報告会

速報会 2019年12月14日(土) 場所：オンライン開催 200名

最終報告会 2020年11月20日(金) 場所：オンライン開催 約200名

報告書 2019年台風第19号災害に関する東北学術合同調査団調査報告書(令和2年11月発刊)

3. 関東支部（2014(H26)～2023(R5)）

(1) 体制と沿革

関東支部は図3.1の体制で運営している。幹事の数増加により、2015(H27)年に支部規定を変更し

て幹事数を 90 名から 110 名に変更した。この増加分は主として行事の運営のみを担当する「委員」とすることを申し合わせた（現在 14 名）。各幹事と委員は、6 つの部会と関東支部選奨土木遺産選考委員会に分かれ活動を行っている。この内、災害対応部会は、2011(H23)年東北地方太平洋沖地震や 2013(H25)年伊豆大島豪雨災害などへの支部対応を経験し 2015(27H)年に組織された。また、関東支部の所掌する範囲が広いことから、山梨県、新潟県、群馬県、栃木県、茨城県の各県に分会が設置されている。

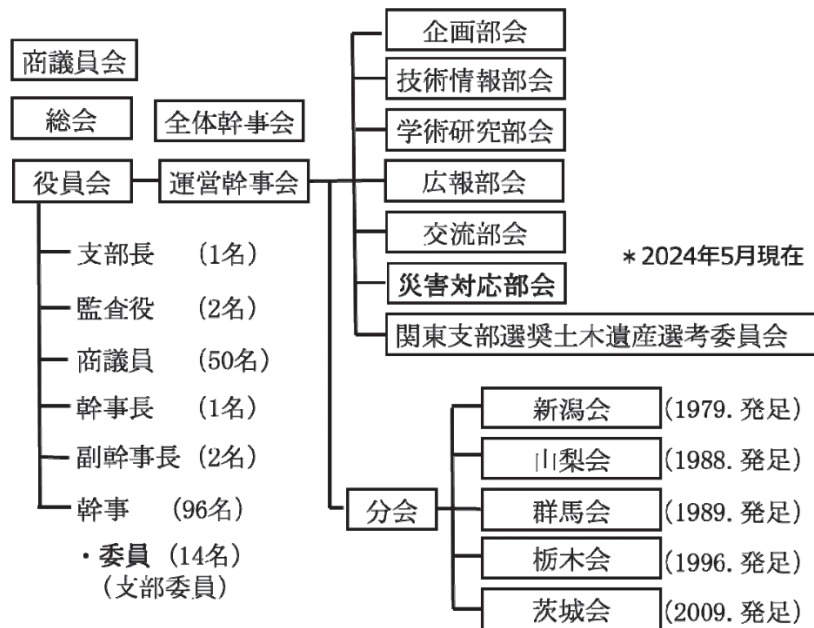


図 3.1 関東支部の体制

支部長、幹事長、副幹事長、事務局長から構成する役員会が中心となって具体的な支部活動の企画、運営を行っている。各年度の役員は表 3.1 の通りである。幹事全員が参加する全体幹事会は原則年 1 回で、各部会の部会長、副部会長、各分会の代表からなる運営幹事会で予算の執行状況の確認や、各部会・分会活動の把握ならびに調整を行っている（年 3～4 回程度開催）。この他、関東地区役員候補者選考委員会や、全国大会の開催前年には土木学会全国大会準備委員会・実行委員会・幹事会を設置している。なお、2023(R5)年の関東支部創立 60 周年を迎えるにあたり、前年には 60 周年記念事業実行委員会を設置して準備に当たり各種事業を実施した。

表 3.1 関東支部歴代支部長・幹事長一覧

年度	支部長	幹事長	副幹事長		事務局長
2014 (H26)	大嶋 匡博 (大成建設)	杉山 太宏 (東海大学)	玉嶋 克彦 (大成建設)	栗原 哲彦 (東京都市大学)	高野美和子
2015 (H27)					
2016 (H28)	笠井 哲郎 (東海大学)	加藤 和彦 (清水建設)	岩田 敏 (清水建設)	土倉 泰 (前橋工科大学)	
2017 (H29)					
2018 (H30)	利穂 吉彦 (鹿島建設)	栗原 哲彦 (東京都市大学)	佐藤 有治 (大成建設)	峯岸 邦夫 (日本大学)	
2019 (R1)					
2020 (R2)	樫山 和男 (中央大学)	岩住 知一 (鹿島建設)	今村 崇 (鹿島建設)	紅露 一寛 (新潟大学)	
2021 (R3)					
2022 (R4)	加藤 和彦 (清水建設)	武藤 慎一 (山梨大学)	影山 雄 (清水建設)	吉田 征史 (日本大学)	
2023 (R5)					

(2) 支部の記念事業

関東支部は、2023(R5)年に創立 60 周年を迎えた。これまでの記録によれば、創立 10 周年 (1974(S49) 年)) を記念して「年次研究発表会」を開催、創立 25 周年 (1989(H1) 年) には記念事業として祝賀会、講演会、記念誌「GRAND DESIGN」を発刊した。また、創立 30 周年 (1994(H6) 年) は、本部創立 80 周年記念事業とタイアップして国際シンポジウムを開催した。その後、支部の周年記念事業は実施していないこともあり、2023(R5)年の創立 60 周年に当たり実行委員会を設置して記念行事を企画し実施した。記念事業の内容を表 3.2 にまとめ示した。

表 3.2 創立 60 周年記念事業の内容一覧

事業	開催場所	開催日	参加人数	内容
記念式典	アルカディア市ヶ谷 6F・阿蘇	2024(R6)年 3月18日	116名	・来賓：藤巻浩之氏（国土交通省関東地方整備局局長） 三輪準二氏（(公社) 土木学会専務理事） ・記念講演 1：復興を描く一次の巨大災害に備える首都像ー 羽藤英二氏（東京大学大学院工学系研究科 社会基盤学専攻教授） ・記念講演 2：一巡した暦の先にあるもの 岸井隆幸氏（日本大学名誉教授） ・ディスカッション：若手技術者・学生と考える今後の 土木学会関東支部 ・60 周年記念クリアファイルの配布
記念祝賀会	アルカディア市ヶ谷	2024(R6)年 3月18日	97名	・祝辞：藤巻浩之氏（国土交通省関東地方整備局局長） 三輪準二氏（(公社) 土木学会専務理事）
コンクリートカヌー大会※	海の森水上競技場 (東京都江東区)	2023(R5)年 8月5日		・参加チーム：22 校 24 チーム（大学・高専 9 チーム、 高校 15 チーム） ・60 周年記念特別賞：栃木県立宇都宮工業高等学校
若手技術者 交流サロン※	土木学会 本部講堂	2023(R5)年 10月6日	16名 +幹事	・ワークショップと懇親会 ワークショップ課題：60 年後の土木業界（建設業界）は、どう なっているか？どうあってほしいか？そのために今何をして おくべきか？
「土木のある風景」 写真コンテスト※	東洋大学 川越キャンパス (審査会場)	2024(R6)年 3月4、5日	応募 総数 48作品	・例年の最優秀賞、優秀賞、佳作に、60 周年記念として特別賞を 設け、審査の結果、特別賞として 4 作品を選定
創立 60 周年 記念誌発刊		2024(R6)年 8月1日		・ページ数：204 ページ（オールカラー） ・企画・編集：土木学会関東支部創立 60 周年事業実行委員会

※支部の年中行事として実施している事業に 60 周年を冠して実施

記念行事として記念マークの制作を決め、「60 周年」をモチーフに、「躍動」をテーマとすることにした。支部幹事のコンペにより決定したのが図 3.2(a)である。未来への可能性を表す無限大をベースに、関東の「K（人型が跳躍）」と支部のマーク（花形）を配置して「無限大の躍動」を表現した。また、記念式典の記念品として、関東支部内で認定された代表的な土木遺産を掲載してデザインしたクリアファイルを作成した（図 3.2(b)）。



(a) 記念マーク



(b) クリアファイル

図 3.2 60 周年記念マークと記念品

(3) 全国大会

2021(R3)年第 76 回大会は、東海大学湘南キャンパスを会場として対面での開催を予定したが、新型コロナウイルス感染症蔓延によって、前年度第 75 回大会（開催場所：名古屋工業大学）に続き、完全オンライン開催となった（会場：東海大学湘南キャンパス）。大会テーマは「これまでも、これからも生活経済社会の礎を築く土木～市民と連携し、インフラのビッグ・ピクチャーを描こう～」、全行事への延べ参加者数（視聴者数）は 26,859 名（2021.9.14 時点）であった。発表講演数は、全 7 部門で 3,236 題、参加者数（視聴者数）は 16,363 名、その他の行事は表 3.3 のとおりである。

表 3.3 第 76 回全国大会の概要

年度	開催場所	開催 期日	基調・特別講演題目（講演者）	その他の特別行事・備考
2021 (R3)	東海大学 湘 南 キ ャ ン パ ス	9.6 ～ 9.10	・基調講演：これからの暮らし，経済とインフラのビッグ・ピクチャー～開かれた魅力溢れる土木学会を目指して～ (土木学会会長 谷口博昭) ・特別講演 1：持続的未來を確かにするグリーンインフラへの展開（造園家涌井史郎） ・特別講演 2：災害派遣医療現場及び新型コロナウイルスの現状（東海大学医学部 梅澤和夫）	・全体討論会：テーマ「新しい生活様式に対応し，市民と協働したインフラづくりに向けて」（9.8） ・研究討論会（9.6,9.7） ・年次学術講演会（9.9,9.10） ・交流会開催せず ・オンライン見学会（9.8） ・国際関連行事（9.8～9.10）

(4) 災害対応

災害の多様化や広域化，複合化を踏まえ，発災時に組織的で迅速な初動対応を行うために，2015(H27)年の総会にて「災害対応部会」の設置が承認された。これを受け，関東支部管轄エリアでの災害時の対応を検討し，災害発生時の連絡・連携，調査体制の構築，本部・各分会および外部機関との連絡を図りながら，災害情報の収集・発信を行い，地域住民の防災力向上のための施策の検討等を行う活動の基盤

を整えた。

2015(H27)年9月、台風17・18号の通過に伴い、関東地方では豪雨被害や土砂災害が広範囲で発生した。特に、一級河川である鬼怒川の堤防決壊による被害は甚大であった。土木学会と地盤工学会は合同調査団を派遣、関東支部では、2007年に国土交通省関東地方整備局と締結した災害協定に基づき、本部会が中心となって地方自治体、関東支部の分会（特に、栃木会）、地盤工学会と連携し、災害の調査、被害メカニズムの解明を行った。この経験から、2017(H29)年3月、地域住民の防災力向上を目的に、関東支部、東海大学、平塚市による共催で、防災セミナー「神奈川県相模川下流域の自然災害と防災対策について考える」を開催した。

2019(R1)年12月、当部会にて「災害緊急対応ガイドライン」と「災害調査の情報公開に関するガイドライン」を策定した。関東支部内に「災害緊急連絡会」を設置し、災害調査団派遣の決定、調査団団長への就任要請、関係各機関への協力要請、調査団との対応、本部等との連絡調整の役割と構成員を明確にした（図3.3）。

2022(R4)年1月には、頻発する地震・豪雨などによる大規模な広域災害に備え、国土交通省北陸地方整備局と関東支部および中部支部は、「大規模災害発生時における相互協力に関する協定」を締結した。これにより、国土交通省北陸地方整備局と土木学会に間で、被災状況調査の実施に関する相互の要請が可能となり協力体制が整った。

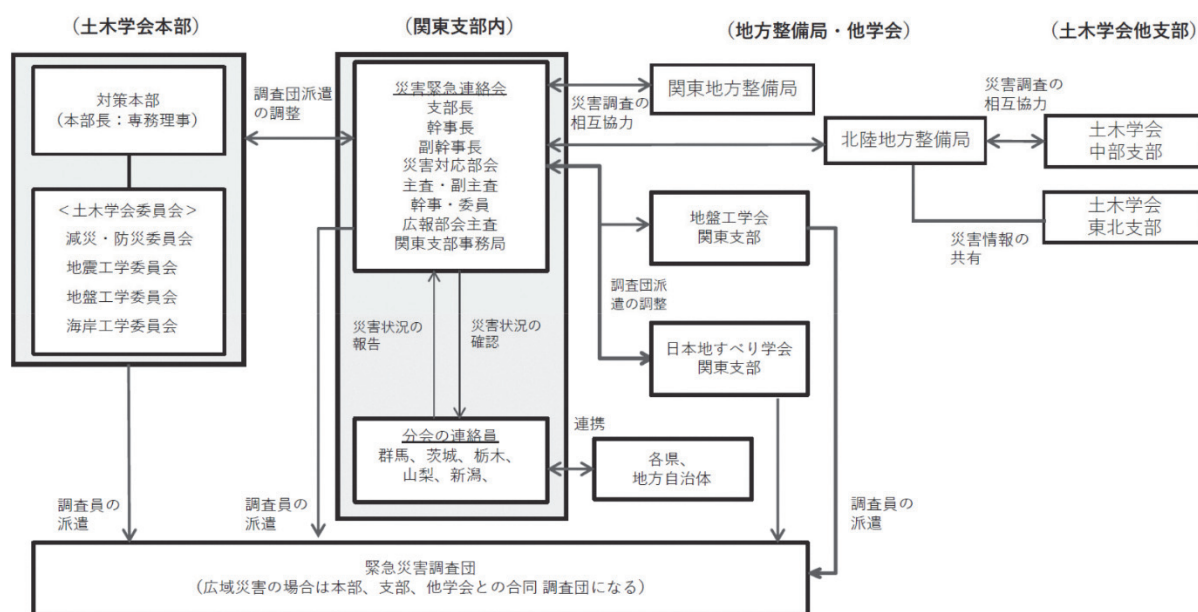


図3.3 関東支部の災害対応に対する体制

(5) 事業トピック

1) 部会・委員会活動について

図3.1に示したように、当支部は6つの部会と1つの委員会がそれぞれに活動を行っている。各部会と委員会の活動目的と活動内容についての概要を、表3.4にまとめて示した。

2020(R2)年初頭から深刻化した“新型コロナウイルス感染症の蔓延（コロナ禍）”は、支部の活動に大きな影響と制限を与えた。中でも、毎年500件近い投稿があり支部の大きな活動の一つである「技術研究発表会」は、2020(R2)年3月、日本大学理工学部船橋キャンパスでの開催に向け準備が進む中、やむなく開催中

止を決定した。また、続く第48、49回大会は、Zoomを利用した完全オンラインでの開催となった。

表 3.4 6つの部会と1つの委員会の活動目的と活動内容

部会名	目的・内容
企画部会	◇各部会の上位に位置し、関東支部運営に関する全般的な項目に関与 ◇支部活動方針の策定や、年間スケジュール等について協議 ◇土木学会の継続的な発展のため、支部としての「中期運営計画」を多角的に分析 ◇インフラメンテナンス市区町村長会議との連携取りまとめ
技術情報部会	◇会員へのサービスを基本に、年3、4回の「講習会」(主に技術士受験のための講習会)を開催 ◇土木界が保有する歴史資料、図面、写真など普段目にすることができない「土木コレクション」の管理と必要に応じて企画・展示
学術研究部会	◇土木技術者の資質向上をもって学術文化の進展と社会発展に寄与するべく、若手を中心とした「技術研究発表会」を開催し、会員相互の技術交流の場を提供
広報部会	◇会員のみならず一般の方も対象に、土木構造物の見学会や各種イベントを開催 ◇土木の素晴らしさの告知と共に“土木”の知名度向上を目的として活動 《具体的イベント等》 1. コンクリートカヌー大会 2. 親子見学会 3. どぼくカフェ（スチューデントチャプター） 4. 土木の日見学会（技術研究所など）
交流部会	◇会員相互の情報交換、交流、親睦の場を提供することにより、学会の一層の充実と活性化を進めることを目的として活動 《具体的イベント等》 1. 写真コンテスト 2. 土木の日現場見学会 3. 談話会 4. 若手技術者交流サロン
災害対応部会	(1.4 災害対応 で説明)
支部選奨土木遺産 選考委員会	◇土木学会選奨土木遺産の関東支部推薦候補の選考 ◇選出された土木遺産は「土木の日」にあわせて選奨土木遺産の銘板と表彰状の贈呈式の開催

2) 分会活動について

関東支部には、新潟会、山梨会、群馬会、栃木会、茨城会の5つの分会があり、それぞれが地域に根差した特色のある活動を行っている。それぞれの会の運営は、各組織から選ばれた幹事を中心に行われている。

活動内容として、後援会・講習会・見学会はすべての分会が企画・開催、各分会独自のものとしては、研究調査発表会（新潟会）、技術研究発表会（栃木会）、建設技術講演会（茨城会）、機関誌発行（群馬会）が挙げられる。

4. 中部支部（2014～2024）

(1) 支部の運営

中部支部は、1938（S13）年5月29日に設立され、現在、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、石川県、富山県、長野県の7県を管轄区域として活動している（設立当初に管轄区域であった福井県は1952（S27）年5月に関西支部に編入）。後述するように、2018（H30）年には中部支部設立80周年を迎え記念事業

を実施し、翌年には支部の活動を取りまとめた80周年記念誌を発刊した。

1) 運営組織

中部支部の役員（2024（R6）年度現在）は、支部長1名、商議員（50名以内）、監査役2名、幹事長1名、副幹事長2名、幹事（60名以内）、および顧問26名である。支部長は産・官・学が持ち回りで担当している。事務局は、支部長と、支部長の所属機関から選出した幹事長、副幹事長（1名、他1名は前年度支部長の所属機関より選出）、幹事、企画WG（ワーキンググループ）事務局担当、および専任事務員で構成される。歴代の支部長・幹事長を表4.1に示す。専任事務員は2012（H24）年より瀬瀬育子が担当し、2018（H30）年より横井巡美がその補助を担当している。なお、事務局は、1997（H9）年11月よりポーラ名古屋ビル内（名古屋市中区栄2-9-26 ポーラ名古屋ビル8F）に置き、地盤工学会中部支部との事務局共有は現在も継続している。

表 4.1 中部支部歴代支部長・幹事長（2014（H26）年度～2024（R6）年度）

年 度	支部長	幹事長	所 属
2014（H26）	早川 高明	鈴木 達之	名古屋市緑政土木局
2015（H27）	小室 俊二	八木 恵治	中日本高速道路(株)
2016（H28）	杉戸 真太	小林 智尚	岐阜大学
2017（H29）	服部 邦男	浦上 博行	中部電力(株)
2018（H30）	松野 篤二 本田 敦	加藤 均	東海旅客鉄道(株)
2019（R1）	小畑 誠	前田 健一	名古屋工業大学
2020（R2）	勢田 昌功 堀田 治	福田 敬大 林 正道	国土交通省中部地方整備局
2021（R3）	道浦 真	西川 武宏	愛知県建設局
2022（R4）	河田 誠一	水野 博樹	名古屋市緑政土木局
2023（R5）	牟田 広繁	村田 啓	中日本高速道路(株)
2024（R6）	小林 智尚	神谷 浩二	岐阜大学

支部運営では、5月の支部通常総会を始めに、それ以降、9回の幹事会、3回の商議員会、1回の顧問会をそれぞれ開催し、各種事業の推進を協議している。また、支部総会に併せて、表4.2に示す特別講演会を開催している。

各種事業を活発に実施するため、幹事会の構成員によって5つのWGを組織している。支部活性化策や中長期戦略の検討などの戦略会議の事務局を担当し、また支部全体の運営の相互調整窓口等を担当する「企画WG」、親子ふれあい見学や市民見学会の交流行事、土木の日関連行事等の企画と実施の支援を担当する「地域WG」、ホームページや出前講座等を通じて学会員および市民への広報活動の支援を担当する「広報WG」、講習会・技術講座等の企画と実施の支援を担当する「講習会WG」、支部研究発表会等の企画と実施の支援を担当する「発表会WG」である。各WGは、主査・副主査を中心にして、幹事会開催に併せて会議を開催している。なお、事務局よりWG担当者を配置し、各WGとの連絡調整を行っている。

表 4.2 中部支部総会・特別講演会（2014（H26）年度～2024（R6）年度）

年 度	講 師	題 目
2014（H26）	岩田 眞（東海旅客鉄道(株)）	超電導リニアによる中央新幹線計画
2015（H27）	田中 義和（トヨタ自動車(株)）	燃料電池自動車 MIRAI の開発と水素エネルギー社会の実現に向けて
2016（H28）	西村 隆司（(株)日経 BP）	「土木の広報」～なぜ理解されないのかー「伝わらない」と悩むすべての技術者へ～
2017（H29）	六郷 恵哲（岐阜大学）	使いたくなる SIP 維持管理技術の地域実装にむけて
2018（H30）	福和 伸夫（あいち・なごや強靱化共創センター）	予知から防災への政策変更下における強靱化共創社会の実現
2019（R1）	奥野 信宏（(公財)名古屋まちづくり公社）	スーパー・メガリージョン構想と中部圏
2020（R2）	（開催せず）	
2021（R3）	今井 力（総務省東海総合通信局）	5G・ローカル 5G 等の普及・推進に向けた取組
2022（R4）	河口 信夫（名古屋大学） 中村晋一郎（名古屋大学）	スーパースィティ／スマートシティを支える情報基盤 Synerex とその活用 中部支部でのビッグピクチャーの取り組みと成果
2023（R5）	香坂 玲（東京大学）	土木グローバル化とグリーン・インフラ，自然資本：愛知・名古屋で考える生物多様性の最前線
2024（R6）	由比 政年（金沢大学） 小林 俊一（金沢大学）	令和 6 年能登半島地震に関する報告

その他，戦略会議，調査研究委員会選考委員会，技術賞選考委員会，優秀講演者賞選考委員会，土木学会推奨土木遺産中部支部選考委員会，地域貢献事業運営委員会，緊急災害対応委員会，減災・防災支部委員会，土木技術者と学生の交流会実行委員会，ビッグピクチャー企画研究会を必要に応じて設置している。

2) 会員数と会員構成

中部支部の会員数は，2024（R6）年 5 月末現在，表 4.3 のとおりである。会員には，ホームページ（<https://jsce-chubu.jp/>）やメールマガジン等による情報提供サービスを充実させている。

表 4.3 中部支部会員数（2024（R6）年 5 月現在）

正会員	個 人	3,114 名
	法 人	52 団体
学生会員		617 名
特別会員		40 団体
合 計		3,823 名
フェロー会員		121 名
名誉会員		29 名

3) 予算

中部支部の 2023（R5）年度の会計予算は，収入合計が 25,143 千円で支出合計が 24,226 千円である。

(2) 支部の活動

1) 研究発表会と講習会

研究発表会の開催は，支部内の学校が持ち回りで実施している。2014（H26）年からの開催校と論文数は表 4.4 に示すとおりである。

さらに、年数回の技術講習会を開催し、会員の技術力向上に努めている。

表 4.4 中部支部研究発表会の開催場所、発表件数

年 度	開催場所	発表件数
2014 (H26)	豊橋技術科学大学	278
2015 (H27)	豊橋工業高等専門学校	300
2016 (H28)	金沢大学	309
2017 (H29)	名古屋大学	322
2018 (H30)	愛知工業大学	295
2019 (R1)	長野工業高等専門学校	271
2020 (R2)	オンライン開催	200
2021 (R3)	オンライン開催	223
2022 (R4)	金沢工業大学	290
2023 (R5)	名古屋工業大学	316
2024 (R6)	富山県立大学	(2025 年 3 月 7 日開催)

2) 調査研究活動

中部支部では、技術水準向上に寄与することを目的に、1997 (H9) 年度から各種テーマに関して調査研究を行う調査委員会の募集を開始し、1998 (H10) 年度からこれらの研究活動への補助を行っている。2014 (H26) 年度以降の実績は表 4.5 に示すとおりである。

表 4.5 調査研究委員会（2014 (H26) 年度～2024 (R6) 年度）

年 度	委員会名	委員長
2013 (H25) ～2014 (H26)	森林整備および森林資源の有効活用を核とした地域デザイン研究	吉村 優治 (岐阜工業高等専門学校)
2014 (H26)	課題解決型研修による“環境を考えられる土木技術者”の養成に関する研究	山田 剛史 (豊橋技術科学大学)
2015 (H27)	課題解決型研修による“環境を考えられる土木技術者”の養成に関する調査研究委員会	角野 晴彦 (岐阜工業高等専門学校)
2015 (H27) ～2016 (H28)	積雪寒冷地におけるコンクリート構造の劣化と健全度評価の適正化に関する調査委員会	久保 善司 (金沢大学)
2015 (H27)	グローバル人材育成のための英語による専門科目の教授方法と効果に関する調査研究委員会	坂本 淳 (岐阜工業高等専門学校)
2016 (H28) ～2017 (H29)	地区防災計画の策定支援方法検討委員会	中村 光 (名古屋大学)
2016 (H28)	辰巳用水における土木技術の再考とそれがもたらす今日的意義	池本 敏和 (金沢大学)
2017 (H29) ～2018 (H30)	木曽川流域圏における対流促進型国土の形成に向けた可能性調査委員会	中村晋一郎 (名古屋大学)
2018 (H30) ～2019 (R1)	道路盛土と舗装の一体型診断システムと長寿命化修繕方法検討委員会	八嶋 厚 (岐阜大学)
2018 (H30)	災害時の携帯端末を用いた避難共助支援に関する委員会	吉田 成宏 (金沢大学)
2019 (R1)	土木系 IoT 教育プログラム開発委員会	松本 嘉孝 (豊田工業高等専門学校)
2020 (R2) ～2021 (R2)	令和元年台風 19 号により生じた千曲川流域の橋梁被害に関する調査委員会	清水 茂 (信州大学)

2021 (R3) ～2022 (R4)	都市再生のインフラ整備とソフト施策の同調化に関する調査研究委員会	樋口 恵一 (大同大学)
2021 (R3) ～2022 (R4)	間伐による森林機能改善の評価検討委員会	吉村 優治 (岐阜工業高等専門学校)
2023 (R5) ～2024 (R6)	カーボンニュートラル実現に向けて社会変革を考える教育方法の検討委員会	角野 晴彦 (岐阜工業高等専門学校)

3) 全国大会の運営

2020 (R2) 年9月7日 (月) から11日 (金) の5日間、オンライン方式 (WEB システム) で第75回年次学術講演会を開催した。本大会は当初、名古屋工業大学、名古屋市公会堂を主会場に開催される予定だったが、新型コロナウイルス (COVID-19) の世界的な流行により、急遽オンライン方式による開催となった。オンライン方式による大会開催は学会史上初めての取り組みとなった。

基調講演会では、家田仁会長から「何を育み何を変えるかー土木の原点と組織文化の視点からー」と題する講演が行われた。特別セッションでは「地方自治体における技術の伝承」をテーマに8件の講演が行われ、特別討論会では福田敬大氏 (国土技術政策総合研究所) のコーディネートのもと、久野悟志氏 (愛知県)、杉山清幸氏 (岐阜県)、藤本佳久氏 (三重県)、吉永匡宏氏 (静岡県吉田町)、小野貴史氏 ((株) 小野組) の5人をパネリストと兵動太一氏 (富山県立大学) をコメンテーターに迎え、特に道路メンテナンスに関する議論がなされた。全体討論会では秀島栄三氏 (名古屋工業大学) と田中里佳氏 (国土交通省中部地方整備局) がコーディネーターを務め、三宅友里氏 ((公財) 名古屋観光コンベンションビューロー)、与謝野優氏 (東海旅客鉄道 (株))、中村光氏 (名古屋大学)、鈴木英敬氏 (三重県知事) の4名のパネリストと大会テーマでもある「守る・攻める・変わるー持続的な成長を支える土木の変革ー」に関して議論が行われた。

オンライン方式での開催となったが、講演総数は3,826件 (オンラインで投稿された質疑応答は13,160件)、基調講演会、特別対談、全体討論会では延べ13,572人の再生回数を数え、パネル展示の閲覧者数約2,900人を合わせると、延べ33,458人の参加者数であり、通常開催と遜色ない参加者数であった。

4) 土木の日関連行事

中部支部では、「土木の日」の関連行事として、親子で参加する「親子ふれあい見学会」や「市民見学会」などを開催している。多数の市民の方々の参加を得て、社会基盤整備への理解を深めていただいている。2014 (H26) 年度以降の実績は表4.6のとおりである。

表4.6 「土木の日」関連行事 (2014 (H26) 年度～2024 (R6) 年度)

年 度	親子ふれあい見学会 (テーマ：見学先)	市民見学会 (開催地：テーマ：見学先)
2014 (H26)	「みんなの暮らしを支える土木について学ぼう！」(浅川ダム、冠着橋、茶臼山地すべり跡地 (動物園・恐竜公園) 等)	富山県：「常願寺川に沿って、3,000mを降下する」、立山カルデラ砂防博物館、常願寺川の巨大水制群ほか 愛知県：「未来を支える社会基盤」、新東名高速道路、安永川トンネル、リニモ車両基地ほか 岐阜県：「土木構造物と木曽川」、大井ダム、新丸山ダムほか
2015 (H27)	「橋をツクル×ミル×マナブ「世紀の難工事？ペーパーブリッジを架けろ！」(ペーパーブリッジ教室、松川橋、新湊大橋、国道8号線坂東立体交差事業現場等)	名古屋市：「～生まれ変わる施設～」、中川橋、名古屋環状2号線、東山動植物園アジアゾウ舎 三重県：「～未来につなぐ高速道路を見学しよう！～」、新名神高速道路 (小牧高架橋、野登トンネル、安楽川橋) 長野県：「～過去から未来まで暮らしを支える施設を巡る～」、国道403号トンネル工事、牛伏川フランス式階段工等
2016 (H28)	「橋をツクル×ミル×マナブ「世紀の難工事？ペーパーブリッジ	石川県：「親子で土木探検！」、神谷内トンネル、金沢外環状道路海側感染、金沢港御供田国際コンテナターミナル、金沢城公園 愛知県：

	を架けろ！」(ペーパーブリッジ教室, 松川橋, 富山大橋等)	「ふらぁ〜り, 土木の旅 〜間近で見る巨大構造物〜」, 名古屋環状2号線, 刈谷ハイウェイオアシス, 矢作ダム 静岡県:「伊豆へのゲートウェイ! 土木の役割・大切さを学ぼう」, 国道136号土肥拡幅工事, 国道136号下船原バイパス工事, 天城北道路
2017 (H29)	「橋で深まる親子の絆! レゴブロックで橋を造ろう, 学ぼう」 千曲川の橋を歩く(須坂市村上橋, 飯山市中央橋等)	富山県:「秘密の土木探検ツアー 〜色々なゲートウェイを見に行こう〜」, 富山駅付近連続立体交差事業, 伏木富山港コンテナターミナル, 富山きときと空港 名古屋市:「都市生活をささえる 名古屋の水道・下水道」, 屋上野浄水場, 水の歴史資料館, 広川ポンプ所工事現場 岐阜県:「プロフェッショナルの現場を見に行こう!」, 東海環状自動車道工事現場(大野神戸IC周辺), 世界淡水魚園, 鼠川遊水池
2018 (H30)	「アーチの謎に迫る 新旧アーチ橋の探検に行こう」(アーチ模型を用いアーチの仕組みを学んでいただいた後, 新旧アーチ橋等を見学)	三重県:「ふだん見ることのできない高速道路の現場を見に行こう」, 国道42号熊野尾鷲道路(トンネル工事現場, IC工事現場) 長野県:「信州の土木を知ろう」, 浅川ダム, 浅川排水機場, 沼目町ラウンドアバウト, 村山橋
2019 (R1)	「あつまれ未来のエンジニア」 (長野駅周辺整備事業地内(ICT建機・ドローン実演), 裾花ダムなど) ※見学地域台風19号の被災により中止	愛知県:「作る現場と守る現場」あいちの土木現場を見て回ろう!」, 名古屋第二環状自動車道, 名古屋港, 日光川水閘門, 埋蔵文化財調査センター 石川県:「見て触れよう「魅力ある県土づくり」」, 金沢外環状道路, 金沢城公園, 金沢港ほか 静岡県:「静岡の土木を知ろう」, 太田川ダム, 富士山静岡空港, 国道473号バイパス工事現場
2020 (R2)	「あつまれ未来のエンジニア」 (裾花ダム, 浅川排水機場等)	富山県:「とやまの土木」インフラツーリズム 〜水と生きる富山〜」, 境川ダム, 川崎橋架け替え現場, 伏木富山港国際物流ターミナル 名古屋高速:「名古屋高速の道路施設を見て回ろう!」, ネックスプラザ, 交通管制室, 東山トンネル緑橋換気所ほか 名古屋市:「名古屋市内の土木遺産を巡ろう!」, 松重閘門, 向野橋, 東山給水塔ほか
2021 (R3)	「建設材料を壊してみよう! 土ってこんなに強い? 大音量! 鉄筋破断!」(信州大学工学部キャンパスE8棟学生実験室) ※新型コロナウイルスの感染拡大防止の為に開催中止	石川県:「いしかわの「土木」を探検してみよう」, 金沢外環状道路海側幹線, 金沢港クルーズターミナル, 国道304号清水谷バイパス ※新型コロナウイルスの感染拡大防止の為に開催中止 三重県:「現場を見て, 土木について学ぼう!」, 国道23号中勢バイパス, 国道1号桑名東部拡幅 ※新型コロナウイルスの感染拡大防止の為に開催中止
2022 (R4)	「ぎふの未来を支え, 災害に屈しない強靱な県土づくり」(岐阜関ヶ原線4車線化工事, 奥田洞谷砂防堰堤, 内ヶ谷ダム等)	長野県:「新発見! 「映える」土木」, 裾花ダム, 久米路橋, 笠倉壁田橋梁建設現場(仮称)
2023 (R5)	「土木の魅力を体感! 親子ふれあい見学会」(笠倉壁田橋建設工事現場, 浅川ダム・排水機場等)	愛知県:「陸・海・空」あいちインフラツアー」, 中部国際空港, 名古屋港, 名古屋高速道路公社 富山県:「富山のどばく発見! ツアー 〜インフラの裏側に大潜入!〜」, 高岡環状線, 利賀ダム, 城端トンネル工事現場
2024 (R6)	「中部の空の玄関口を探検! 親子ふれあい見学会」(セントレア(中部国際空港))	三重県:「三重県の旬の現場を見て, 土木について学ぼう!」, 四日市港霞ヶ浦地区W81号岸壁, 東海環状自動車道田切川橋

5) 「土木出前講座」と先生を対象にした「エクスカーショーン」

中部支部では大学教員や各種団体の技術者を講師に派遣する「土木出前講座」を実施し、大変好評を得ている(2024(R6)年7月現在、36講座を用意)。とりわけ、将来を担う子供たちに土木の大切さや魅力を知っていただくことに力をいれており、小中学生にも理解できる講座を用意している。2014年度以降の実績は表4.7のとおりである。

また、小中学校の先生に土木に対する理解を深めていただくとともに、教育現場での活用を目的に先生を対象にした「エクスカーショーン」を実施している。2014年度以降の実績は表4.8のとおりである。

表 4.7 「土木出前講座」実施実績（2014（H26）年度～2024（R6）年度）

年 度	講座数	実施回数	のべ参加者数	内、学校での実施数
2014（H26）	37	15 回	1,364 名	11 校, 1,267 名
2015（H27）	37	11 回	671 名	5 校, 354 名
2016（H28）	36	9 回	502 名	7 校, 361 名
2017（H29）	37	19 回	1,817 名	7 校, 1,203 名
2018（H30）	36	23 回	2,564 名	8 校, 1,910 名
2019（R1）	35	18 回	2,134 名	9 校, 1,538 名
2020（R2）	39	10 回	312 名	4 校, 100 名
2021（R3）	39	9 回	317 名	6 校, 213 名
2022（R4）	38	9 回	365 名	5 校, 155 名
2023（R5）	37	10 回	866 名	5 校, 732 名
2024（R6） （2024 年 12 月現在）	37	12 回	2,551 名	3 校, 50 名

表 4.8 「エクスカージョン」実施実績（2014（H26）年度～2024（R6）年度）

年 度	エクスカージョン（テーマ：見学先）
2014（H26）	① 名古屋港（金城埠頭・ガーデンふ頭・港内） 等 ② 輪中の郷，水資源機構長良川河口堰，中部電力西名古屋火力発電所
2015（H27）	① 虹のハイウェイ館，安楽川橋，野登トンネル，長良川河口堰，船頭平閘門管理所 等
2016（H28）	① 「中川運河から見る今・昔 ～都市開発と防災～」：中川運河，松重閘門，露橋水处理センター，リンナイ倉庫，岡谷鋼機倉庫 等
2017（H29）	① 東海環状自動車道四車線化事業（鷺見橋，三尾河橋），白川郷散策 等
2018（H30）	① 岐阜県美濃市の土木遺産・文化財，東海環状自動車道工事現場 等
2019（R1）	① 伊勢湾水理環境実験センター ② 蒲郡港浚渫工事現場
2023（R5）	① 新丸山ダム工事事務所・建設工事現場，及び中部インフラDXセンター
2024（R6）	① 近畿日本鉄道の教育施設および上津架道橋工事現場

6) 中部支部功績賞の表彰

中部支部役員として支部の運営に顕著な貢献をなした方を「中部支部功労賞」として表彰しており，表 4.9 に示す方々が受賞している。

表 4.9 中部支部功労賞受賞者（2014 年以降）

年 度	受賞者氏名	所 属	受賞者氏名	所 属
2014 (H26)	宇佐美 勉	名城大学教授，名古屋大学名誉教授		
2015 (H27)	藤井 則義	元愛知県建設部土木部長	宮池 克人	中日本高速道路株式会社代表取締役社長 CEO
2016 (H28)	渡辺 恭久	元名古屋市緑政土木局局长	野田 豊範	名工建設株式会社相談役

2017 (H29)	伊藤 義人	岐阜工業高等専門学校校長、名古屋 大学名誉教授	
---------------	-------	----------------------------	--

7) 支部長賞の表彰

中部支部に本部を置く大学および高等専門学校の土木工学系教育課程を卒業あるいは修了する成績優秀な学生を対象にして、勉学奨励に寄与することを目的に支部長賞を授与している。この表彰制度は、2016（H28）年度より開始し、近年では約20機関で約40名の学生を表彰した。

8) 優秀講演者賞、技術賞の表彰

中部支部研究発表会において講演原稿として投稿されたものの中から、優れた研究成果や業績を「土木学会中部支部優秀講演者賞」（第Ⅰ部門～第Ⅶ部門）および「土木学会中部支部技術賞」（設計・施工・維持管理部門）として表彰している。

9) 学生と技術者の交流会

土木を専攻する中部地域の学生と土木技術者が交流する場を設け、土木の魅力を伝えるとともに、将来的に土木技術者を目指す学生を支援することを目的に交流会を実施している。土木に関する仕事、鉄道や道路等のインフラ整備状況などをテーマにして交流を深めている。

10) 支部創立80周年記念事業（実行委員長：梅原秀哲（名古屋大学））

2018（H30）年に中部支部創立80周年を迎えるのを記念し、以下の行事・企画を行った。

①記念式典・祝賀会

2018（H30）年11月17日（土）／名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール7Fメインホール）

②記念講演

2018（H30）年11月17日（土）／名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール7Fメインホール）

- ・記念講演1：東海旅客鉄道株式会社 執行役員 新美憲一「リニア中央新幹線と期待される効果」
- ・記念講演2：名古屋大学 教授 森川高行「自動運転技術がもたらす地域社会のイノベーション」

③80周年記念誌の発刊

- ・中部支部80周年記念事業
- ・中部支部のあゆみ（10年間の活動記録、歴代役員など）
- ・中部の土木史（10年間の主要建設プロジェクトなど）

④関連事業

- i) 施設見学会「中川運河クルーズ」：松重閘門，中川運河クルーズ，リニア・鉄道館
- ii) 施設見学会「工事中のトンネル探索」：三遠南信道，トンネル工事現場（東栄地区），鳳来寺山
- iii) 写真展「名古屋の交通インフラの発展」

11) 災害対応

中部支部では、2014（H26）年度以降以下の災害対応を行った。

- i) 令和3年7月熱海市伊豆山土石流災害
 - ・「土木学会中部支部令和3年7月熱海市土砂災害調査連絡会」
- ii) 令和6年能登半島地震
 - ・2023（R5）年度土木学会中部支部研究発表会にて「能登半島地震調査報告会」を開催
 - ・2024（R6）年度土木学会中部支部総会特別講演にて「令和6年能登半島地震に関する報告」を開催

5. 関西支部（2014-2024）

（1）支部長・副支部長・幹事長，主な出来事

年度	支部長	副支部長		幹事長	主な出来事
2014（H26）	池内 幸司 森 昌文	荻野 浩平	常田 賢一	三村 衛	全国大会 大阪大学他
2015（H27）	河内 清	竹内 廣行	堂垣 正博	青木 伸一	
2016（H28）	建山 和由	加賀田健司	末永 清冬	青木 伸一	
2017（H29）	村上 考司	井上 晋	大石 富彦	堀 智晴	創立 90 周年
2018（H30）	吉村 庄平	兼塚 卓也	森川 英典	堀 智晴	大阪北部地震他，豪雨・高潮災害の発生
2019（R1）	楠見 晴重	金剛 一智	里深 一浩	重松 孝昌	COVID-19 の発生
2020（R2）	塩谷 智弘	伊津野和行	吉村 文章	重松 孝昌	
2021（R3）	三村 衛	大石 耕造	末廣 正人	勝見 武	
2022（R4）	東川 直正 渡辺 学	里深 好文	畑中 克也	勝見 武	全国大会 京都大学他
2023（R5）	加賀山泰一	内田 敬	平野みゆき	八木 知己	
2024（R6）	青木 伸一	久保田晃司	長谷川憲孝	八木 知己	

（2）支部事務局

1) 職員

事務局長 1 名，職員 2 名，非正規職員 1 名

2) 関係規則等

2020 年 就業規則に在宅勤務に関係する内容を追加

2020 年 関西支部事業継続計画（BCP）の策定，テレワーク（在宅勤務・モバイル勤務）就業規則の制定，在宅勤務に関係する規則類の一部改定

2022 年 就業規則の定年年齢を 60 歳から 65 歳に改定し，関西支部継続雇用制度規程を制定

3) 勤務・業務体制

2019 年 感染症対策として在宅勤務を導入し，平常時も週 1 回程度の利用を推奨

2020 年 業務データのクラウド化

2022 年 行事申込のオンライン化

2024 年 行事参加費や寄附金等の入金にクレジットカード・コンビニエンスストア決済を導入

（3）支部の記念事業

1) 創立 90 周年（2017 年 12 月 16 日）

テーマ：革新の種 ～社会の転換期を迎えて～

内 容：記念式典・祝賀会・記念誌の発刊（QR コード参照）の他，次の創立 100 周年に向け 10 年後の

支部活動の柱となる、将来の土木を支える子供たち、土木工学を学ぶ学生、若手土木技術者の育成を目的とした事業を重点的に実施した。

現在も継続している次の事業を含む 25 の行事では、のべ 1,600 名が参加した。

また、地域貢献資金として 140 件、約 350 万円の寄附が集まった。

- ①小中高等学校等の教員を対象とした研修
- ②学生会員の海外研修支援事業（再開）
- ③土木系学生を対象とした大規模土木プロジェクト実地研修
- ④若手技術者の輪を広げる「ぶら・土木」活動



創立 90 周年記念誌

2) 阪神・淡路大震災

20 周年（2014.10.30）

「阪神・淡路大震災 20 年地震防災フォーラムー来るべき巨大地震にいかに備えるかー」を実施

30 周年（2024.12.13）

「阪神・淡路大震災から 30 年」を実施

(4) 全国大会のトピック

1) 平成 26 年度（2014.9.10-12） 大阪大学豊中キャンパス，ホテル阪急エキスポパーク

テーマ：百年の計，変わらぬ使命感と進化する土木

- ・土木学会創立 100 周年の年となり，多くの記念事業が全国大会の会場で開催された
- ・関係機関や運営委託会社との連携強化を図り，開催校の負担軽減を重視した運営を行った
- ・スタッフ・アルバイト用ビブスを初めて製作し着用した

2) 令和 4 年度（2022.9.12-16） 京都大学吉田キャンパス，国立京都国際会館

テーマ：文明化された社会を超えて～土木學のめざすもの～

- ・1937（S12）年に第一回全国大会が開催された京都の地で，ポストコロナの新たな価値観と社会を目指す再スタートとなる大会を 3 年ぶりとなる対面方式で実施
- ・大会日程の変更（大会運営のスリム化を目指し，基調講演等の開催を木曜日から水曜日に，年次学術講演会を水・金曜日を木・金曜日に変更）
- ・QR コード受付，クレジットカード即時決済の導入
- ・サイレント企画「京都国際会館 QR コードツアー」（QR コード参照）
- ・イベント企画「日本の伝統文化の体験」，「土木構造物記録映画上映会 & どぼくカフェ再放映」（QR コード参照）



(5) 災害対応（※当時の役職・所属を掲載）

1) 災害時における調査等の相互協力に関する協定

- ・2009 年に国と関係する学協会との協定を締結（2020 年（一社）日本応用地質学会関西支部が加入
- ・2014 年度までに支部管轄の全府県および政令指定都市と関西支部が締結

2) 調査・報告会

◆東北地方太平洋沖地震(2011.3.11～)

2011 年 東北地方太平洋沖地震による津波災害特別調査研究委員会-南海・東南海地震津波に備えて委員会を発足

2011-2013 年 報告会：6 回，参加者：のべ 1,616 名

支部だより
No.80 2023.7
(全国大会特集)

2013 年 報告書刊行

◆平成 30 年大阪北部地震（2018.6.18～）（QR コード参照）

支部単独の調査団を結成（団長：清野純史(京都大学)）

速報会（2018.7.19）を実施 対面開催（会場：関西大学，参加者：420 名）

◆平成 30 年 7 月豪雨災害（2018.7.10～）（QR コード参照）

○2 つの調査団を結成

- ・平成 30 年 7 月豪雨災害関西調査団（団長：吉村庄平（関西支部支部長））

（災害時における調査の相互協力に関する協定に基づく，関連する学会の連合調査団）



2018 年大阪府北部の地震に関する調査報告書



平成 30 年 7 月豪雨災害
関西調査団 調査報告書

調査団メンバー（順不同）		
団 長	吉村 庄平(大阪高速鉄道株)	(公社)土木学会関西支部 支部長
団長補佐	堀 智晴(京都大学防災研究所)	(公社)土木学会関西支部 幹事長
調査団員	角 哲也(京都大学防災研究所)	(公社)土木学会関西支部 災害調査団団長
	芥川 真一(神戸大学大学院工学研究科)	(公社)地盤工学会関西支部 災害調査団団長
	藤田 正治(京都大学防災研究所)	(公社)砂防学会関西支部 災害調査団団長
	釜井 俊孝(京都大学防災研究所)	(公社)日本地すべり学会関西支部 災害調査団団長
	北田奈緒子((一財)地域地盤環境研究所)	(一社)日本応用地質学会関西支部 災害調査団団長

- ・土木学会関西支部平成 30 年 7 月豪雨災害調査団（団長：角哲也(京都大学)）

（土木学会関西支部は河川・気象関係の知見をまとめる調査団）

○速報会（2018.8.9）を実施 対面開催（会場：関西大学，参加者：500 名）

◆平成 30 年台風 21 号による高潮災害（2018.9.4～）（QR コード参照）

- ・支部調査団は結成せず，土木学会海岸工学委員会災害調査団（団長：森信人(京都大学)）への支援

- ・速報会（2018.10.19）を実施 ハイブリッド開催（会場：大阪大学他，参加者：380 名）

◆令和元年台風 19 号（2019.10～）

- ・日本学術会議公開シンポジウムへの支援

- ・報告会（2019.12.24）を実施 ハイブリッド開催（会場：大阪工業大学他，参加者：720 名）

◆和歌山市六十谷水管橋損傷（2021.10.3～）

- ・災害協定に基づき，和歌山市から和歌山県を通じて調査依頼があり，調査団（団長：杉浦邦征（京都



平成 30 年台風 21 号
による高潮災害調査
団 調査報告書



2021 年 10 月に発生
した六十谷水管橋崩
落 調査報告書

大学)を派遣した(QRコード参照)

・報告書を作成, 報告会(2022.9.14)を実施(会場:令和4年度全国大会, 参加者:200名)

◆令和6年能登半島地震(2024.1.1~)

・災害協定関西地区連絡会調査団(地盤工学会関西支部)への支援

(6) 事業トピック

1) 役員選出・選挙・総会委任の改革

2015年 オンラインシステムによる役員選挙・総会委任の運用開始

2015年 支部規程の改定 幹事を支部個人会員から選出と変更

2018年 支部規程の改定 支部総会の決議事項や成立要綱の変更(役員選挙・総会委任の廃止)

2019年 支部総会が議決・承認の場合から会員の活動報告や交流の場となり, 商議員会が最高議決機関に変更

2) 年次学術講演会の改革

2020年 関西支部に所属する会員へのアンケート調査

2021年 関西土木工学交流発表会検討委員会の設置, 提言書の作成

2022年 ポスター発表を導入

2023年 名称を「関西土木工学交流発表会」に変更, 国土交通省近畿地方整備局および(一社)建設コンサルタント協会近畿支部と連携し, 建設技術展近畿とも協力して開催

開催時期(春→秋)・場所(大学校舎→建設技術展会場)に変更

3) 関西支部地域活動賞の創設(2020年~)

4) 若手技術者の育成交流の検討

2018年 次世代土木のあり方検討委員会の設置

2019年 シビリアカデミーの創設(産官学の若手技術者が2年間で8回の研修を受ける)

第1期生(2020-2021年度), 第2期生(2022-2023年度), 第3期生(2024-2025年度)

5) 自治体連携の検討

2021年 地方自治体との連携強化に関する検討委員会の設置, 提言書の作成

2022年 提言書の作成, 発表会(2022.9.14)を実施(会場:令和4年度全国大会, 参加者:200名)

2023年 「インフラメンテナンス市区町村長会議近畿ブロック」との意見交換(養父市他但馬地域)

2024年 「インフラメンテナンス市区町村長会議近畿ブロック」と土木学会関西支部との連携講習会を実施(養父市他但馬地域)

奈良県宇陀市との意見交換会

6) 活動実績(主催・共催行事のみ, 後援・協賛等は含まず)

※関西支部は行事数が多いため, 詳細の掲載は省きました. 詳しくはホームページをご覧ください。

年度	行事数	述べ参加人数	備考
2014 (H26)	47	41,205	全国大会
2015 (H27)	31	18,104	
2016 (H28)	45	52,880	京都国際マンガミュージアム内の展示(3.2万人)
2017 (H29)	56	19,540	創立90周年
2018 (H30)	52	92,593	駅構内の展示(7万人)
2019 (R1)	51	20,249	COVID-19の発生
2020 (R2)	38	21,735	
2021 (R3)	38	25,604	
2022 (R4)	60	65,528	全国大会
2023 (R5)	46	28,720	
2024 (R6)	37	31,522	

6. 中国支部（2014～2024）

（1）中国支部における10年の歩みの概要

2021年に設立80周年を迎えた中国支部は、1941年の設立以来、会員に対して交流の場あるいは最新の技術情報を入手する機会を提供し、また会員の技術のレベルアップを図るための講演会や講習会等の行事の実施に加えて、一般市民に土木の役割を理解してもらうための見学会といった地域に根差した継続的な活動を続けてきた。この10年においても、各種行事の開催の維持を心掛け、さらに活動を発展させるべく商議員会あるいは幹事会を開催し、各行事の在り方を精査し実行するように努めた。具体的には、COVID-19の影響により一部開催内容を変更する、あるいはWebを交えての開催となる時期があったが、毎年5月での中国支部総会・特別講演会・交流会、あるいは毎年6月に支部活動の中心となる「支部研究発表会」（1949.～継続中）を開催し、若手優秀発表者（2024年度は34名）の表彰を実施してきた。その他一般市民参加型の行事として、鳥取県委託事業で始めた「土木ツアー&土木カフェ」（2015年～継続中）の他、「インフラツーリズム」（2015年～2019年）「夏休み親子見学会」（2013年～継続中）などの見学会や「夏休み子ども土木実験教室」（2015年～継続中）といった幅広い年代に向けて土木の興味を誘う企画を実施してきた。なかでも2008年から始めた「身近な土木を描いてみよう！図画コンクール」は、土木の図画を描いてもらうことで、生活を支えている土木を小中学生に認識してもらう取り組みとして継続させており、毎年1,000名近く（2024年度：908名）の図画が集まるなど、土木への関心を高める効果を産んでいる。さらに会員向けサービスを含めた土木技術者のレベルアップを図るために、「若手技術者交流」（2016年～2017年）と「シニア土木講演会」（2014年～2019年）といった年代別の技術者を対象にした交流の場を提供するように努め、前者を「中国地方整備局長と話してみよう」（2024年）という行事に発展させた。また中国地区5県にある土木系大学・高等専門学校及び土木系高等学校を対象に、優秀な成績で卒業される卒業生を「優秀学生表彰」（2024年度30校31学科より31名）として表彰し、中国支部に所属する会員が実施する地域の重点課題に関する研究集会あるいは共同研究等に対する「調査研究助成」も継続的に実施し、さらに2022年度からは、中国地方の発展に寄与する業績や地域課題の解決に向け取り組んだ業務などに「土木学会中国支部賞」の授与を始めるなど、地域の発展に貢献する活動も発展させながら実施している。本部と連携した行事の運営として、2015年と2023年において全国大会をそれぞれ岡山大学（テーマ「地域とともに確かな未来を築く土木技術～新たな第一歩～」）および広島大学・広島工業大学（テーマ：不確実な時代における土木の新たな挑戦～技術でつながる「適散適集」な社会～」）にて開催した。また地域での災害に応じて公益社団法人地盤工学会中国支部と連携して、2014年には土田孝調査団長広島豪雨災害合同緊急調査（土田孝調査団長）、2018年には西日本豪雨災害調査（清水則一調査団長）を行い、それぞれ報告会を実施し報告書を発刊した。この災害を契機として、国土交通省中国地方整備局、公益社団法人地盤工学会中国支部、公益社団法人砂防学会中四国支部及び公益社団法人日本地すべり学会関西支部と災害発生時における相互協力に関する協定を2019年に締結するに至っている。

これら活動の詳細の紹介や行事の案内のために、支部Webの更新、facebook:シビルネット中国の更新（2017年～継続中）およびニュースレターの毎年の発行を事務局が担当し、広報活動の充実も図っている。このように中国支部は会員（個人法人：正会員1784名、名誉会員18名、フェロー会員49名、賛助会員43口：2024年3月末）に対するサービスの維持・発展に加えて、次世代の土木技術者の育成あるいは一般市

民への土木技術の理解を促す各種行事の開催を行ってきており、今後もこれらの活動の拡充を図っていく予定である。なお、各種行事の詳細については後述する各項目を参照していただきたい。

(2) 支部組織と会員数

支部組織（令和5年度）は、支部長1名、副支部長2名（次年度の支部長候補と研究発表会実行委員長）を含む29名の商議員、2名の監査役から成る商議員会、幹事長1名を含む26名の幹事から成る幹事会から構成される。支部長は官公庁、民間、大学が持ち回りで担当し、年1回の支部通常総会、年2回の商議員会、年4～6回の幹事会において、各種事業の企画立案および実施が議論される。歴代の支部長、副支部長および幹事長は表6.1の通りである

表 6.1 歴代支部長、副支部長および幹事

中国支部の歴代支部長、副支部長、幹事長（2014～2024）

年代	支部長	副支部長	副支部長	幹事長
2014	前野 詩朗	尾藤 勇	兵動 正幸	綾野 克紀
2015	尾藤 勇・丸山 隆英	土田 孝	十河 茂幸	出路 康夫
2016	土田 孝	北村 弘和	大橋 晶良	河合 研至
2017	北村 弘和・小橋 慶三	清水 則一	橋本 堅一	川瀬 憲司・富田 貴俊
2018	清水 則一	三上 幸三	西山 哲	中田 幸男
2019	齋藤 博之	西村 強	重松 尚久	後藤 裕司
2020	西村 強	吉岡 一郎・水島 賢明	進士 正人	小野 祐輔
2021	水島 賢明	藤原 章正	河原莊一郎	加藤拓一郎
2022	河合 研至	多田 智・森戸 義貴	谷口 朋代	半井健一郎
2023	森戸 義貴・中崎 剛	西山 哲	竹田 宣典	西澤賢太郎・舟橋 弥生・津森 貴行
2024	西山 哲	赤松 邦康	梅田 辰将	橋本 成仁

支部事務局は、2009年より従来の事務局長、事務局員の役割を専任の職員2名で果たす体制としていたが、事務作業の見直しと効率化を図ることで、現在は専任の職員（増村浩子事務局長、事務幹事を兼任）1名で前記役割を果たす体制にしている。また2021年に土木学会中国支部在宅勤務就業内規を定め、事務局の働き方改革を推進している。まお事務局は、広島県庁内の自治会館内（広島市中区基町10-3）に設置されていたが、建物の老朽化が進んだことから、2018年に広島市中区鉄砲町1-18佐々木ビル8階へ移転し今日に至っている。

中国支部の会員数の推移は表6.2のとおりである。支部では会員へのサービス向上や積極的な情報発信などを通して、正会員（個人、法人）、学生会員、特別会員および賛助会員の維持、増強に努めてきた。COVID-19で活発な行事を催すことが出来なかった影響により会員数の減少が見られた年度もあったが、その傾向から回復する傾向が見られている。

表 6.2 支部会員数の推移

3月末時の中国支部の会員数（2014～2024）

会員種別	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
正会員	個人	1,425	1,454	1,486	1,519	1,546	1,491	1,465	1,381	1,457	1,442
	法人	21	21	22	24	24	24	24	25	26	25

特別会員	34	33	33	33	34	34	34	34	35	37	36
学生会員	328	326	338	338	351	334	287	260	255	280	277
合計	1,808	1,834	1,879	1,918	1,955	1,883	1,810	1,700	1,775	1,786	1,784
フェロー会員	14	14	14	13	16	16	15	15	16	16	18
名誉会員	55	57	64	60	58	58	56	56	55	51	49
賛助会員	39	39	36	36	36	37	39	39	39	39	43

(3) 支部活動

支部活性化ワーキンググループ（WG）を 2015 年度に立ち上げ、各種行事の企画の継続と活性化を図るための活動に取り組んだ。ここでは、それら各種行事の概要を紹介する。なお当 WG は、2023 年末で幹事会が引継いで活動を継続している。

1) 支部研究発表会

支部研究発表会を毎年 5 月末から 6 月初めにかけて実施した。「支部研究発表会」は支部行事の中でも中心的なイベントであり、開催校との調整により、研究発表だけでなく「特別講演」、「見学会」、「懇親会」等を開催する年度もある。また研究発表では若手優秀発表者の表彰をセッションごとに実施している。表 6.3 に各年度の支部研究発表会の会場と発表件数を示す。2020 年は COVID-19 感染対策のために講演発表および併設行事を中止し、2021 年はオンラインでの研究発表会の開催となった。それに伴う発表件数の減少が見られていたが、会員数の傾向と同様に、ここ数年は発表件数も回復基調にある。研究発表会に合わせて土木学会中国支部研究発表会概要集を作成しているが、それまで CD-ROM で発刊していたものを 2021 年からダウンロード版に切り替えて、より多くの会員が最新の情報を入手できる機会として積極的に活用してもらえるようにした。

表 6.3

中国支部研究発表会の開催状況（2014～2024）

開催年・通算	開催場所・担当	発表件数
2014 年・第 65 回	鳥取大学	191
2015 年・第 66 回	松江工業高等専門学校	207
2015 年・第 67 回	山口大学	257
2016 年・第 68 回	広島工業大学	219
2017 年・第 69 回	広島大学	216
2018 年・第 70 回	徳山工業高等専門学校	206
2019 年・第 71 回	岡山大学	213
2020 年・第 72 回	呉工業高等専門学校 ◎	186
2021 年・第 73 回	山口大学 ※	171
2022 年・第 74 回	松江工業高等専門学校 ※	163
2023 年・第 75 回	鳥取大学	184
2024 年・第 76 回	広島工業大学	197

◎コロナにより対面の発表は中止

※オンライン開催

2) 市民参加型の行事の開催

「どぼくカフェ&土木ツアー」は、建設分野担い手確保事業を目的として、鳥取県 k から 2015 年より委託事業を実施している。「どぼくカフェ」は、街中のオープンな場所で土木に関連づけたテーマを一般市民からの新しい切り口で語るというイベントであり、中国支部では例えば次のような企画にて開催してきた。

2015 年「欧州土木デザイン紀行 in 鳥取～インフラの眺めから地域をとらえよう～」(土木遺産ツアーと併設)、2016 年「マンホール蓋は『路上の芸術』」2017 年「『宇宙戦艦ヤマト 2199』の工事を実在の建設会社が発注したら!」、2018 年「趣味は道路めぐり」、2019 年「ただいま工事中!」2022 年・2023 年・2024 年「大きな機械が活躍するドボクの世界!」

また「土木ツアー」は、子供たちとその保護者に普段立ち入ることの出来ない現場で土木に触れていただき、わかりやすく解説することで土木の魅力を感じてもらおう行事として好評を博している。

2016 年 旧日野橋・賀祥ダム、鳥取西道路工事現場：気高第 2 トンネル、2018 年 鳥取西道路内海中常松トンネル、2019 年 境港外港竹内南地区貨客船ターミナル整備事業工事、2022 年 鳥取県立美術館建設現場、2024 年 田後高架橋(仮称)工事現場(どぼくカフェ&土木ツアーとして開催)。

その他、2013 年より支部主催として「親子見学会」を実施し、さらに産業や生活の基盤を支えているインフラ施設を見学する「インフラツーリズム」、歴史的価値のある「土木学会選奨土木遺産」を専門家による解説も交えて見学する「土木遺産ツアー」などを企画・実施し、またこれら見学会を合同で開催するなど、市民参加型の活動の活性化を図った。

その他、親子で参加する行事のさらなる発展を図るために、2015 年より、関西支部の出前講座から始まった実験教室を中国支部の幹事会所属団体を中心にして、夏休みの宿題に自由研究に役立つ土木に関する実験教室を実施する「夏休み土木実験教室」を COVID-19 の影響による中断時期を除いて毎年開催した。

3) 身近な土木を描いてみよう! 図画コンクール

一般市民参加型の行事として特筆すべきものに、2008 年から主催で実施している「身近な土木を描いてみよう! 図画コンクール」がある。これは、土木の日関連行事として、中国 5 県の小中学生に「土木(社会資本整備)」に関連する図画を描いてもらうことで、普段生活している場所、何気なく見ている物が土木技術に支えられていることの認識を少しでも感じてもらい、土木(環境含む)に親しんでもらうきっかけを作ることを目的として企画されたものである。学校関係などの図画の専門家や土木学会支部幹事からなる審査会にて優秀な作品を選定し、優秀作品を表彰し佳作作品と共に各県にて展示する行事を行っている。低学年の子どもたちは現場で働く機械や電車を生き生きと描く一方で、

中学生はダム、トンネル、橋などの社会基盤と日々の暮らしの関わりを豊かな色彩やユニークなアングルで切り取るなど、審査員が目を奪われる力作が毎年応募される状況にある。優秀作品(13 作品)は翌年のカレンダーとして印刷して副賞として贈呈している。2013 年の応募作品数は 832 点であったが、2017 年度 1,239 名、2018 年度 1,130 名、2019 年度 1,169 名、2020 年度 704 名、2021 年度 1,254

参加無料

どぼくカフェ&土木ツアー

令和6年7月27日(土)9:00~12:00 集合場所:岩美町中央公民館
 (第1部)どぼくカフェ 場所:岩美町中央公民館(岩美町大字浦高1038番地6)
 「大きな機械が活躍するドボクの世界!」

お話しは、「世界一受けたい授業」で「チコちゃんに叱られる!」にご出演された高橋良和さん
 働く車が大好きなおじさん高橋先生が、知っているようで知らないドボクの世界へご案内します。
 ドボクについて、素朴な疑問を高橋先生に聞いてみよう!

岩美サイダーを飲みながら
どぼくの話を聞いてお楽しみませんか?

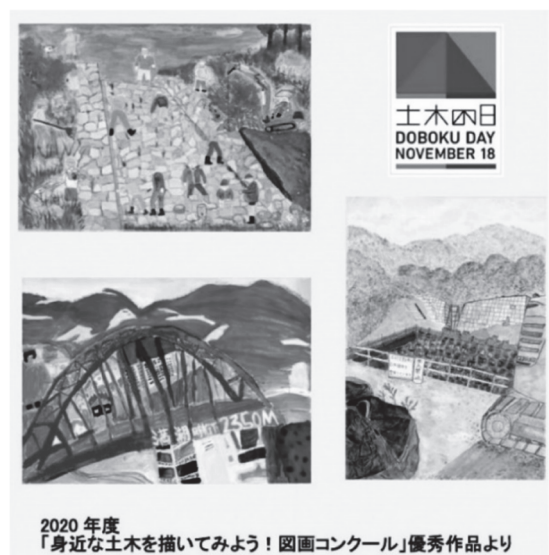
<案内人>
京都大学教授
高橋 良和 さん

【第2部】土木ツアー 見学場所:田後(たじり)高架橋(仮称)工事現場(岩美町田後41-1)
 夏休み! 探検! 工事現場の中を見てみよう!!

<募集要項、注意事項、申込について>
 日時: 令和6年7月27日(土)
 集合場所: 岩美町中央公民館(駐車場あり)
 受付時間: 午前4時5分~
 参加人数: 小学生以上の親子25組 約50名
 申込: 下のQRコードから申込ください
 ※申込締切: 7月19日(金) 12時までに
 ※応募多数の場合は抽選となります
 ※参加費: 無料、持参物: 飲み物、7月23日(水)までにお知らせします
 ※雨天決行の模様、会場設営中
 ※見学場所への往復は貸切バスで移動いたします

2つのアンケートに回答した方へ
おまぐせをプレゼント!

どぼくカフェ&土木ツアー
 問合せ先: 公益社団法人土木学会中国支部 電話: 082-222-2376
 E-mail: jstce-chugoku@trus.ocn.ne.jp
 主催: 鳥取県 公益社団法人土木学会中国支部
 後援: 鳥取県教育委員会、岩美町教育委員会
 協力: 岩美町、オリエンタル白石、藤原組 特定建設工事共同企業体



名、2022年度1,420名、2023年度1,059名（2008～2024：応募数：15,659名）の図画が集まっており、COVID-19の影響があった年度以外は毎年1000名近くの応募数となっている。事務局長の尽力により、2024年は第17回を迎えることになり、中国支部の特色のある行事として定着するに至っている。

4)「講習会」などの会員サービスあるいは土木関係者向けの行事

中国支部においては会員が技術のレベルアップを図るための行事として各種講習会を実施した他、概ね35歳以下の会員・学生会員の技術力向上や学会活動を通じた交流を図る行事、およびシニア会員の交流と意見交換のための行事を実施した。前者は2016～2017年に「若手技術者技術交流会」を開催し、後者については2013年にシニア技術者および研究者の活動を積極的に活用するための講演会を開催したのを踏まえて、2014年から2017年および2019年に「シニア土木講演会」を開催した。この「若手技術者交流会」については、しばらく中断していたが、関西支部で実施している「整備局長と話してみよう」の行事を参考に、土木学会と中国地方整備局の連携により、若手技術者への交流と触発の機会を提供するために、中国地方整備局の局長と直接対話する「中国地方整備局長と話してみよう」という行事を2024年から企画実施することになった。

また公益社団法人地盤工学会中国支部の共同主催で、年度ごとに中国各5県における土木工事に關するホットな話題を土木に関わる中国地方の技術者・学生に提供する「工事報告会」（1965～継続中）を開催し、各地域での土木技術者の情報交流とインフラ整備への関心を高める役割を担っている。さらに支部総会の開催に合わせて、会員向けに「特別講演会」を実施しており、土木分野の技術者に求められる課題や全国の取り組み状況を会員に提供する場を提供した。

(4) その他の支部主催行事

毎年開催する行事とは別に、支部主催の行事を開催した。例えば、2014年には「次世代の土木技術者が描く未来社会と“私の貢献”」をテーマとした若手技術者交流サロンと「豊かなくらしをこれからも」と題した土木学会100周年記念イベントを開催し、そのイベントにおいて本部と連携した土木ふれあいフェスタ、支部企画のシビル大学、どぼくシアター、どぼくクイズに加えて地元企業からの展示・体験イベントなど数多くの企画を実施した。ここではトピック、「土木学会中国支部創立80周年記念行事」と「中国支部賞」の概要を紹介する。

1) 土木学会中国支部創立80周年記念行事

令和3年度支部長水島賢明氏に実行委員長を務めていただき、「持続可能な開発目標（SDGs）と地方のインフラ」を共通テーマに次の通り開催した。

● 記念式典

- ・来賓挨拶：土木学会長谷口博昭氏、国土交通省中国地方整備局長多田智氏
- ・広島大学理事・副学長金子慎治氏による基調講演
- ・選奨土木遺産認定式
- ・「持続可能な協調社会の新しい価値とインフラ」をテーマにしたパネルディスカッション（出席者：東広島市長：高垣広徳氏、作家エッセイスト：茶木環氏、国際

公益社団法人土木学会中国支部創立80周年記念行事

『持続可能な開発目標（SDGs）と地方のインフラ』

COVID-19とパンデミックを経て、環境や気候に対する私たちの意識が徐々に変わりつつあります。持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けて、交通・通信システムから産業施設、上下水道網まで広くインフラは、なくてはならない生活基盤としてその役割を果す所々が増えています。土木学会中国支部は創立80周年を機に、多岐にわたる分野で交流を深め、共に発展していくことを目指します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

令和3年11月9日(火)
13:30～17:00 開場13:00
【会場】・広島国際会議場 <ヒマワリ>
(広島県広島市東区1-5-40 第3ホール)
・オンライン(ZOOMウェビナー)
【参加費】 無料
【定員】 300名(オンライン500名)
【対象】 一般市民・学会員
新型コロナウイルス感染拡大に伴ってはオンライン開催のみとなります。詳しくは支部ホームページを参照。
https://committees.jsc.or.jp/chugoku/node/756

【参加申込】 土木学会中国支部ホームページ 土木学会中国支部HP・新聞掲載・支所創立80周年事業
★会場参加 土木学会中国支部ホームページ 土木学会中国支部HP・新聞掲載・支所創立80周年事業
★オンライン参加(ZOOMウェビナー) オンライン参加の方は、登録事項に参加登録をしてくださいます。
https://us02web.zoom.us/join/register?u=K18Y0C5F8_BaoV7T20A

【プログラム】

◆開会挨拶 (13:30～13:45)
◆令和3年度選奨土木遺産認定式 (13:45～14:15)
・選奨土木遺産について 岡山大学学術部 後藤 博久氏
・九十九歳「管理倉」 広島県 本川 隆「管理倉」 広島市
※会場にて参加された方には、「中国地方の選奨土木遺産」の印刷物を送呈。
◆基調講演 (14:15～15:00)
演 題：「アカデミックエクスチェンジが駆動する地方創生：広島大学の挑戦」
講 師：広島大学理事・副学長(グローバル化担当) 金子 慎治氏
◆パネルディスカッション (15:10～16:50)
テーマ：「協調社会の新しい価値とインフラ」
パネリスト
東広島市長 高垣 広徳氏
作家・エッセイスト 茶木 環氏
持続可能な地域社会総合研究所所長 藤田 浩氏
国際協力機構 大塚 昌雄氏
土木学会会長 谷口 博昭氏
コーディネーター 土木学会理事 藤原 肇正氏
◆閉会挨拶 (16:50～17:00)
※会場参加は、不特定多数を要するため、受付にて検温・手洗い消毒などのコロナ感染対策にご協力ください。
※会場にて録画させていただきます。
※COVID-19オンライン参加では、申請方法が異なります。
詳細は、上記80周年行事ホームページをご覧ください。

【開催場所】 広島県 広島市 一般社団法人日本建設業連合会中国支部
一般社団法人建設コンサルタンツ協会中国支部 公益社団法人日本都市計画学会中国支部
公益社団法人地盤工学会中国支部 公益社団法人日本コンクリート工学会中国支部
公益社団法人土木学会中国支部 TEL: 082-222-2376 FAX: 082-222-2496
E-mail: jsc@chugoku.ktr.or.jp

協力機構：大窪香氏，持続可能な地域社会総合研究所所長：藤山浩氏，土木学会会長：谷口博昭氏，コーディネーター80周年行事副実行委員長・広島大学教授：藤原章正氏）

● 現場見学会：広島駅南口広場の工事現場の見学会

記念式典には会場：150名，オンライン：230名，現場見学会20名と多数の方々の参加，また岸田文雄内閣総理大臣，斎藤鉄夫国土交通大臣より祝辞のメッセージをいただくなど成功裡に終えることができた。また「中国地方の選奨土木遺産」第3版を土木学会中国支部創立80周年記念として出版した。

2) 土木学会中国支部賞

土木技術による中国地方の発展に寄与する著しい業績，中国地方に建設された優れた土木施設や構造物の工事，中国地方の地域課題の解決に向け取り組んだ業務，あるいは技術の普及に貢献した業務などで，土木学会中国支部会員が関与するものに贈られる賞の制定を，2019年から表彰委員会で議論し2021年度に最初の募集を行った。それ以後毎年中国支部総会にて表彰式を行い，支部長より表彰状と副賞を贈呈している。各年度の受賞は次の通り。なお2023年度支部発表会および2024年度支部総会では「土木学会中国支部賞受賞記念講演会」を開催し，受賞内容を広く認知してもらう活動を実施した。

2021年度：米子自動車道船谷川橋（PC上部工）工事，日本海側で随一のクルーズ拠点に向けた境港国際多目的ターミナル整備事業，2022年度：産官学で取り組む『岡山道路パトロール隊』，東広島呉自動車道阿賀IC立体化，インフラマネジメント基盤DoboXを核とした新たなサービスの提供，2023年度：奥津発電所改修工事，柳井原貯水池河道化に伴う環境対策，2024年度：i-Construction2.0実践のためのICT技術を適用した浚渫土砂処分場施工管理技術，島根原子力発電所津波防波壁設置工事，広島港クルーズターミナル整備事業。

(5) 会員増強に向けての広報活動など

広報活動として，ホームページの更新，Facebookによる行事案内・行事報告，土木iによる行事案内・行事報告，ニューズレターの発行の他，国土交通省中国地方整備局企画部が主催する建設技術フォーラムに毎年出展を行ない，学会活動の周知に努めると共に会員の増強を図っている。また賛助会員へのサービス向上企画として，「技術相談室」案内，賛助会員1口につき5枚のテキスト無料券の配布，支部研究発表会概要集配布，学会図書の正会員価格での購入，「身近な土木を描いてみよう!」図画コンクールカレンダー配布，行事案内などの送付（研究発表会・企業等による展示&交流会等）を実施してきた。「技術相談室」は1996年度より設けた技術者向けのサービスであり，I～VII部門の部門ごとに4～5名程度の相談員を選出し，それぞれの分野における技術的な質問等を受ける制度である。技術相談の申込書は中国支部のホームページからダウンロード可能であり，中国支部宛に質問事項を郵送あるいはFAXで送ることにより相談を受け付ける。なお，2017年3月で解消したが，支部島根会を設立し，国土交通省中国地方整備局，島根県，島根

2019年 6月1日 土木学会 中国支部 Newsletter Vol.28

中国地方におけるトンネルの合理的設計・施工に関する研究
岡山県土木部道路建設課 川東 裕洋

「中国地方におけるトンネルの合理的設計・施工に関する研究会」（以下，本研究会という）では，中国地方におけるトンネルの調査，設計，施工，維持管理に関する資料を収集・整理して，今後の合理的なトンネルの設計・施工に資することを目的として，次の事業について継続的に活動を行っています。

- ・トンネルの調査，設計，施工，維持管理に関する問題点にかかわる情報交換
- ・トンネルの調査，設計，施工，維持管理に関する問題点にかかわる専門的，技術的立場からの検討，助言
- ・研究成果の公表

本研究会の構成員は，会長であるNPO法人臨床トンネル工学研究所の中川浩二理事長をはじめとした学識経験者と，国土交通省中国地方整備局，西日本高速道路（株），中国5県，中国地方の政令市2市及び広島高速道路公社の代表者で構成されており，道路トンネルの工事発注者の立場として，各々が所有・施工しているトンネルの調査，設計，施工，維持管理に関する情報・技術等を提供しあい，助言等を行っています。

本研究会の平成30年度の活動内容については，平成31年1月30日に広島市内の会議室にて，工事等報告（図-1）及び議題討論（図-2）を行いました。（写真-1，2）



図-1 工事等報告

工事等報告では，島根県，岡山県発注の2件のトンネルについて，各県の担当者から施工中の各現場における課題及びその対応策等について報告をして，今後の他現場における適用性を検討するとともに，情報共有を行いました。

また，参加者それぞれが持ち寄ったテーマについて議題討論を行い，先進的な取組等の情報共有を行いました。

議題内容	
1	東付コンクリートの金網への対応について
2	トンネル照明（直付タリウムランプ）の更新について
3	最近発生したボイララインに発生する腐蝕について
4	建設現場の安全管理方法について
5	東付コンクリートの乾裂問題について
6	トンネル内の照明について
7	東付トンネルの修繕工事について
8	トンネル施工に伴う影響調査や調査について

図-2 議題討論内容

今後同様な条件下でトンネルの設計・施工を行う場合は，これらの情報を活用することで，より合理的な設計・施工が可能となるものと考えています。

平成31（令和2）年度も引き続き，本研究会の活動を行い，今後の合理的なトンネルの設計・施工に役立てていきたいと考えております。



写真-1 実施風景（工事等報告）



写真-2 実施風景（議題討論）

県技術士会、松江工業高等専門学校、島根大学、松江テクノフォーラムの後援のもとで、年1回の研究・事例報告会の他に講習会やシンポジウムを開催し、土木技術者の技術向上と親睦を図る交流の場を提供した。このような県単位での土木技術に関する活動を支えることで、当地域での学会の存在価値を高める工夫も行った。

特に2001年7月発行のVol. 21を最後に休刊状態であったものを2014年から再発行し年2回を基本として発行し、現在も継続している。内容は、支部長による支部運営方針の説明、土木学会各賞受賞報告、支部選奨土木遺産選考委員会による「土木学会選奨土木遺産」の紹介、土木学会中国支部賞の内容紹介や特別講演会、研究会などの各種行事の開催報告やそれに関連した中国地方における工事や取り組みについての記事（2018年「道路構造物の老朽化への対応（国土交通省中国地方整備局）」「高速道路リニューアルプロジェクトについて（西日本高速道路株式会社）」、2019年「中国地方におけるトンネルの合理的設計・施工に関する研究会（岡山県）」「広島高速道路と広島高速5号線事業（広島高速道路公社）」）さらには各年度の行事の案内が掲載されている。ニュースレターはホームページで公開され、現在Vol.38（令和6年6月8日発行）を数えるに至り、会員あるいは一般市民向けの情報誌の役割を担っている。

7. 四国支部（2014～2024）

（1）支部の運営

1）支部運営－総会・商議員会・幹事会－

四国支部は1995年5月に設立され、2024年5月で設立29周年を迎えた。

支部総会は、表7.1に示すように、毎年5月に愛媛・徳島・香川・高知の順に各地区持ち回りで開催しており、同時に、会員ならびに一般市民向けの特別講演会を行っている。また、商議員会を年2回（11月、5月）、幹事会を年4回開催して、支部の円滑な運営を図っている。

表 7.1 支部総会と特別講演会開催一覧（2014～2024）

開催年月日	会 場	特別講演会・演題	講演者	所 属
2014.5.30	ザグランドパレス（徳島市）	四国初J1クラブ誕生	新田広一郎	徳島ヴォルティス（株）代表取締役社長
2015.5.22	ホテルパールガーデン（高松市）	ノーベル賞に繋がった徳島の産学連携・考	藤井 章夫	徳島大学客員教授
2016.5.27	三翠園ホテル（高知市）	土木広報戦略会議及び土木広報センターの設置と活動	小松 淳	土木広報センター次長
2017.5.19	ホテルメルパルク松山（松山市）	四国の活性化のために	石原 俊輔	四国経済連合会専務理事
2018.5.18	徳島大学工業会館メモリアルホール（徳島市）	観光オーセンティシティ：まちづくりへの視点	小林 潔司	土木学会 106 代会長
2019.5.31	三翠園ホテル（高知市）	私の経験とこれからの土木学会～東京駅の変遷他～	林 康雄	土木学会 107 代会長
2020.5.22	建設クリエイティブビル（高松市）	（中止）		
2021.5.28	建設クリエイティブビル（高松市） オンラインで開催	今「転換」の時、四国のビッグピクチャーを～開かれた魅力あふれる土木学会へ～	谷口 博昭	土木学会 109 代会長

2022.5.27	建設クリエイトビル（高松市） オンラインで開催	（中止）		
2023.5.26	マリンパレスさぬき（高松市）	先人の知恵や工夫に学ぶ「四国 防災八十八話マップ」の活動	上月 康則	徳島大学 教授
2024.5.31	三翠園ホテル（高知市）	土木事業と大学	柏谷 増男	愛媛大学名誉教授

2) 会員数、会員の構成

四国支部の会員数は、表 7.2 に示すように 2014 年 3 月末は 1,277 であったが、漸減傾向にあり、その後は、少し持ち直し、2024 年 3 月末現在 1,087 となっている。

表 7.2 四国支部会員数（2014～2024）

時 期	個人会員	（名誉会員）	法人会員	学生会員	特別会員	合 計
2014 年 3 月末	962	12	22	260	33	1,277
2015 年 3 月末	941	12	23	239	33	1,236
2016 年 3 月末	920	10	23	210	34	1,187
2017 年 3 月末	918	12	25	225	33	1,201
2018 年 3 月末	962	13	26	234	33	1,255
2019 年 3 月末	952	14	25	252	33	1,262
2020 年 3 月末	928	14	26	215	33	1,202
2021 年 3 月末	827	13	28	206	32	1,093
2022 年 3 月末	873	13	29	181	32	1,115
2023 年 3 月末	850	14	30	160	31	1,071
2024 年 3 月末	865	14	30	161	31	1,087

注：名誉会員は個人会員に含まれる。

3) 組織、事務局、歴代支部長・副支部長・幹事長

支部役員は、支部長 1 名、副支部長 2 名、幹事長 1 名、商議員、幹事、事務局という構成になっている。

事務局は高松市福岡町 3 丁目建設クリエイトビル内に設置され、事務局長合田裕亮、事務職員笠井斗美恵、パート職員野中佐也加が勤務している。

表 7.3 四国支部歴代支部長、副支部長、幹事長一覧（2014～2024）

年 度	支部長	副支部長	副支部長	幹事長	備 考
2014(H26)	上羽坪 勲	岡林宏二郎	松木 裕之	松室 圭介	西日本高速(株)
2015(H27)	近藤 光男	頼木 清隆	風間 優	橋本 親徳	徳島大学
2016(H28)	石橋 良啓	堀井 克章	別枝 修	畠中 秀人	四国地方整備局
	名波 義昭				
2017(H29)	大野 裕紀	小竹 望	福田 敬大	武田 啓二	四国電力(株)
2018(H30)	島 弘	瀬尾 守	高瀬 直輝	大内 雅博	高知工科大学
2019(R1)	平井 秀輝	横井 克則	竹内 孝	荒瀬 美和 佐々木政彦	四国地方整備局
	小林 稔				
2020(R2)	吉田 秀典	西川 栄吉	末澤 等	石塚 正秀	香川大学
2021(R3)	氏家 勲	増山 高幸	谷 芳彦	日向 博文	愛媛大学
2022(R4)	丹羽 克彦	堀井 克彦	竹中 康博	森本 輝	四国地方整備局

	荒瀬 美和			原田 昌直	
2023(R5)	後藤 由成	宮崎 耕助	中川 逸郎	大城 壮司	西日本高速(株)
2024(R6)	武藤 裕則	荻野 宏之 横地 和彦	天羽 誠二	野田 稔	徳島大学

(2) 支部の活動

1) 研究発表会、講習会・フォーラム等

「土木学会四国支部技術研究発表会」を表 7.4 に示すように、毎年 5 月に愛媛・徳島・香川・高知の各県順の持ち回りで開催している。発表会では、会員の一般論文発表の他に、会員の情報交換、技術研鑽に資することを目的として、部門を越えた話題性のあるテーマについて討議を行うために、フォーラムを開催している。

表 7.4 土木学会四国支部技術研究発表会・フォーラム開催一覧（2014～2024）

開催日	会場	発表 論文数	フォーラム・テーマ	優秀 発表者数	参加者数
2014.5.31	徳島大学	168 編 Web:8	四国におけるインフラ維持管理の現状と課題	16 名	476 名（研究発表） 105 名（フォーラム）
2015.5.23	香川大学	165 編 Web:29	地方創生に向けて地方の建設業界はどのような貢献ができるのか？	16 名	432 名（研究発表） 114 名（フォーラム）
2016.5.28	高知工科大学	123 編 Web:16	地方建設界（産官学）の未来図	13 名	220 名
2017.5.20	愛媛大学	166 編 Web:26	インフラメンテナンスのための人材育成と技術開発	17 名	277 名
2018.5.19	徳島大学	184 編 Web:14	南海トラフ地震情報の活用を考える	21 名	442 名
2019.6.1	高知工科大学	170 編 Web:7	切迫する南海トラフ地震と豪雨への備え～地域における土木技術者の役割とは～	13 名	270 名（研究発表） 90 名（フォーラム）
2020.5.22 ～6.14	香川大学	Web:54	（発表は web セッションのみ）	—	
2021.5.29	愛媛大学	145 編 Web:20	i-Construction 推進のための産官学の取組	14 名	664 名（研究発表） 124 名（フォーラム）
2022.5.28	徳島大学	143 編 Web:15	インフラツーリズムの可能性	15 名	589 名（研究発表） 184 名（フォーラム）
2023.5.27	香川大学	139 編 Web:13	四国における脱炭素の取組の現状と未来	18 名	436 名（研究発表） 73 名（フォーラム）
2024.6.1	高知工科大学	148 編 Web:17	高知発 流域治水への挑戦	11 名	502 名（研究発表） 198 名（フォーラム）

上段は口頭発表数、Web は web セッションによる発表数

2) 調査研究活動

四国支部では、四国支部委員会規則に基づき、表 7.5 に掲げる支部委員会を設置し、調査・研究活動を活発に実施している。また、各委員会は、年に 1～3 回、発表会・講演会・説明会などを開催し、調査研究結果を、支部会員や一般市民に発信している。

表 7.5 四国支部における委員会（2024 現在）

委員会名	設置期間（年度）	活動内容（目的）
1) 国際問題研究委員会	1998 年～	四国における土木工学分野の技術・教育・産業の国際整合性と競争性を高め、外国と交流し、情報を収集し、発信し、評価する世界に開かれた学会支部活動を行うための方策を研究し、実施する。
2) インターネット活用委員会 （旧 HP 編集委員会）	1998 年～	土木学会四国支部インターネット活用委員会は、土木学会四国支部の広報活動をインターネットを活用して積極的に推進することを目的とする。
3) 支部選奨土木遺産選考委員会	2002 年～	土木学会選奨土木遺産選考委員会の選考に際し、四国支部推奨の授賞候補を選考するため、四国支部内に土木学会四国支部選奨土木遺産選考委員会を設置する。
4) 四国地域緊急災害調査委員会	2004 年～	四国地域の緊急災害を調査し、自然災害による被害の軽減に努める。
5) 四国ブロック南海地震研究委員会	2004 年～	南海地震を対象として調査、研究を行い、南海地震による被害の軽減に努める。
6) 四国支部賞選考委員会	2008 年～	四国地域において、土木工学の学術並びに技術の活用・進歩・発展や土木技術者の社会的評価向上に顕著な貢献をなしたと認められる者を表彰し、その業績を讃えることによって、学会支部活動の活性化を図る

3) 全国大会の運営

2019 年 9 月 3 日（火）～5 日（木）の 3 日間、香川大学幸町キャンパス、レグザムホール、香川県福祉総合センター、JR ホテルクレメント高松を主会場として、令和元年度全国大会を開催した。高松市での開催及び香川大学での開催もはじめてであった。大会テーマを「激甚化する災害、挑戦する土木」とし、基調講演会では林康夫会長による「人口減少社会におけるインフラストラクチャーのあり方～レジリエントで活力のある社会の構築～」と題した講演があった。レグザムホールで行われた、基調講演会、特別講演会、全体討論会では延べ 2,924 名の参加があった。

香川大学幸町キャンパスで開催された第 74 回年次学術講演会の申込件数は、第 I～IIV 部門及び共通セッションで 3,622 編であった。参加者は 1 日目 7,758 名、2 日目 4,464 名、3 日目 8,547 名、延べ 20,769 名であった。

4) 土木の日関連事業

土木学会四国支部では関係機関の協力のもと、「土木の日」および「くらしと土木の週間」の関連行事を活発に実施している。その年度の選奨土木遺産の認定書授賞式を行い、その後特別講演会を実施し、会員ならびに土木技術者のみならず多数の市民の皆様の参加を得て、土木技術が社会基盤の整備に果たす役割について理解を深めていただくとともに、土木に対するイメージアップに努めている。

表 7.6 土木の日関連行事 四国支部選奨土木遺産及び特別講演会(2014～2024)

日 付	土木学会選奨土木遺産		土木の日特別講演会	
	名 称	場 所	講 師	演 題
2014.10.10	熊井隧道	高知県黒潮町	島田 政信 宇宙開発機構(JAXA)	宇宙から土砂災害を見張る！～リモートセンシング技術の現状と活用～

2015.11.18	新川橋梁	香川県三木町	馬場 俊孝 徳島大学大学院教授	巨大津波の発生メカニズムと予測技術
2016.10.14	宮内川青石護岸	愛媛県八幡浜市	白柳 洋俊 愛媛大学助教 古谷 祥恵（一社）土木技術者女性の会	四国に点在する土木遺産の魅力 一般社団法人土木技術者女性の会の紹介
2017.11.14	府能隧道	徳島県 佐那河内村／神山町	大内 斉 鹿島建設（株）	土木界の生産性向上，担い手確保の取組について
2018.11.20	吉野川橋	徳島県徳島市	赤星健太郎 内閣府都市可視化調整官	持続可能な地域構造の形成に向けて－可視化を通じて四国の持続可能な地域構造を考える－
2019.10.31	麻生堰	高知県四万十市	塚田 幸弘 土木学会専務理事	今そこにある「巨大災害の危機」南海トラフ地震のリスク
2020.11.5	三架橋	香川県観音寺市	塚田 幸弘 土木学会専務理事	土木学会におけるインフラメンテナンスの戦略的取組
2021.11.26	千賀居隧道	愛媛県八幡浜市	野口 貴文 東京大学教授	2050 カーボンニュートラルに向けたセメントコンクリートの役割とCCCの現状
2023.11.17	佐川橋	高知県四万十町	長谷川修一 香川大学特任教授	四国を救う建設業と観光
2024.11.8	瀬詰橋	徳島県吉野川市	寺田 光宏 東急建設（株）代表取締役社長	これまでの土木とのかかわりと土木技術者の使命役割

5) 表彰

土木学会四国支部では 2005 年より土木工学の発展，土木事業の推進または支部の目的遂行に関して貢献をした支部会員に表彰を行い，四国支部賞を授与している。四国支部賞には，技術功労賞（2005 年～），技術賞，研究論文賞，技術開発賞，技術活用賞，地域技術賞，地域貢献賞（以上 2008 年～）を設けており，受賞者は 2014 年以降で 96 件，252 人である。また土木系高校，高専，大学の優秀卒業生・修了生の表彰者は 2014 年以降で 253 人となっている。

6) 支部ホームページ

四国支部のホームページ（HP）は 1998 年に開設され，インターネット活用委員会 WG によって運営されている。2013 年からはシビルネット四国（Facebook）による情報発信，2014 年からは，「四国土木紀行」を引き継いで「新四国土木紀行 on Facebook」を開始，SNS による情報発信を行っている。2024 年度はスマートフォンに対応し，CMS による管理運営を円滑にするために大幅なリニューアルを行い，11 月 1 日に公開した。

7) 賛助会員制度

2012 年 5 月に賛助会員制度を開始し，2024 年 12 月現在 23 団体 29 口の参加をいただいている。

8) 四国支部創立 20 周年事業

四国支部は，2015 年 5 月に創立 20 周年となった。記念事業として，2014 年 9 月に「瀬戸大橋塔頂体験ツアー」を募集し，76 名の参加により北備讃瀬戸大橋の海拔 195m からのパノラマ展望を体験いた

だいた。2015年7月から20周年事業として「技術研究発表会 Web 投稿システム」を開発し、2016年度の技術研究発表会から運用を開始した。2024年現在も運用を続けている。

8. 西部支部（2014～2024）

(1) 支部の運営

1) 会員の構成、会員数

正会員、学生会員のほかに、賛助会員（法人）で構成されている。会員数の推移は表 8.1 に示すとおりである。

表 8.1 西部支部会員・賛助会員数の推移

時 期	正会員（人）	学生会員（人）	正会員・学生会員計（人）	賛助会員（社）
2014年3月末	2,034	696	2,760	59
2015年3月末	2,037	674	2,711	58
2016年3月末	2,057	695	2,752	57
2017年3月末	2,068	660	2,728	56
2018年3月末	2,108	735	2,843	56
2019年3月末	2,012	888	2,900	55
2020年3月末	1,998	622	2,620	56
2021年3月末	1,903	615	2,518	56
2022年3月末	1,980	711	2,691	55
2023年3月末	1,987	687	2,674	55
2024年3月末	1,986	699	2,685	53

2) 組織

1938年7月、九州沖縄各県および山口県下関市在住会員を対象とする西部支部を福岡市に設置し、活動を開始した。2013年5月から、九州地方整備局が所管する下関港湾空港技術調査事務所以外の下関市在住会員の分掌支部を中国支部に変更した。また、支部ブランチとして「沖縄会」が2011年に発足し、沖縄の自然・社会条件を踏まえた土木工学の発展と沖縄の振興および自立的発展に寄与することを目的として、沖縄地域独自の活動を行っている。

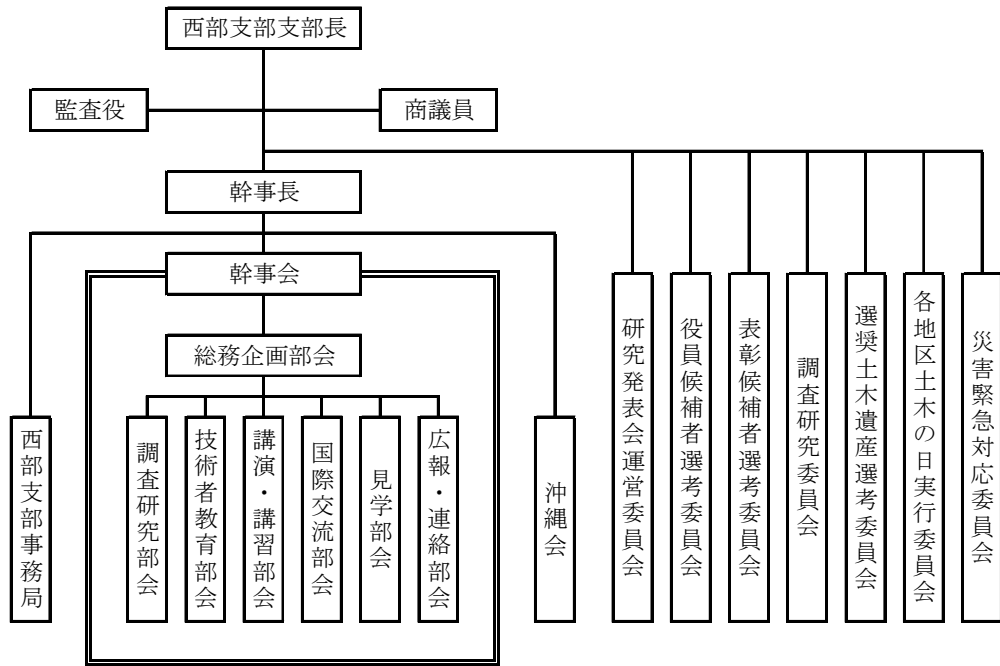


図 8.1 西部支部組織図 (2024 年 3 月末時点)

3) 予算

収入の主な費目としては、賛助会員収入、行事収入、本部会計繰入金によるものであり、年間約 2 千万円程度の収入を元に西部支部の事業を実施している。

4) 事務局

2011 年から支部沖繩会が加わり、現在の事務局は次のとおりである。

表 8.2 西部支部の事務局所在地

事務局	発足年月	所在地
西部支部	1997 年 9 月～	CTI 福岡ビル (福岡市中央区大名 2-4-12)
沖繩会	2011 年 9 月～	(社)沖繩しまたて協会内 (浦添市勢理客 4-18-1)

5) 広報活動・会員増強

「市民協働活動」に関心を持つ個人 (一般市民や土木学会会員) や活動の実施主体の交流を支援し、市民活動の更なる充実と土木分野に関する一般社会の理解促進を図るとともに、学会活動の情報提供等により学生会員の減少に歯止めをかけ会員増強を目指すため、2014 年から Facebook ページ「シビルネット九州沖繩」を立ち上げ運営を始めた。(2024 年 6 月末現在 フォロワー数は 602 人)

6) 歴代支部長、幹事長の一覧

支部長・幹事長の選出は産・官・学の 8 機関の輪番制で実施している (表 8.3)。

表 8.3 西部支部歴代支部長および幹事長一覧

年 度	支部長	幹事長
2014	山崎 惟義 (福岡大学)	辰巳 浩 (福岡大学)
2015	本間 清輔 (西日本高速道路(株)) 北田 正彦 (西日本高速道路(株))	松田 均 (西日本高速道路(株))

2016	二宮 潔（福岡市） 三角 正文（福岡市）	本村 正美（福岡市） 井戸 隆文（福岡市）
2017	小平田浩司（九州地方整備局） 増田 博行（九州地方整備局）	小平 卓（九州地方整備局） 藤巻 浩之（九州地方整備局）
2018	松田 泰治（九州大学）	矢野真一郎（九州大学）
2019	前川 聡幸（九州旅客鉄道(株)）	堀江 秀理（九州旅客鉄道(株)）
2020	千田 善晴（九州電力(株)）	北原 文広（九州電力(株)） 楠田 憲吾（九州電力(株)）
2021	西川 昌宏（福岡県）	尾崎 忠晴（福岡県） 山口 甲秀（福岡県）
2022	重石 光弘（熊本大学）	円山 琢也（熊本大学）
2023	津野 孝弘（福岡市） 竹下 和宏（福岡市）	八島 弘倫（福岡市） 渡邊 桂三（福岡市）
2024	加治 英希（西日本高速道路(株)）	池田 宰（西日本高速道路(株)）

(2) 活動

1) 研究発表会（調査研究部会）

西部支部研究発表会は、毎年3月に支部所属の10の大学にて持ち回りで実施している（表8.4）。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により2019年度の九州大学での開催は中止（論文集は発行）、2020年度および2021年度はオンライン開催となった。

表 8.4 研究発表会の開催校と論文数

年 度	開催校	論文数
2014	琉球大学	390
2015	九州産業大学	426
2016	佐賀大学	396
2017	宮崎大学	412
2018	長崎大学	463
2019	九州大学	429
2020	九州工業大学	389
2021	鹿児島大学	421
2022	熊本大学	429
2023	福岡大学	431
2024	琉球大学	

2) 技術発表会（技術者教育部会）

毎年、大学やコンサルタント、建設会社等から新技術・新工法・新材料・工事に関する報告などを募集し発表会を開催している。

2009年からは、（一社）九州構造・橋梁工学研究会、（公社）地盤工学会九州支部、（一社）建設コンサルタント協会九州支部、（公社）日本コンクリート工学会九州支部、および（一社）日本建設業連合会九州支部の後援を得て開催している。

3) 講習会等（講演・講習部会）

支部活動の活性化と会員の土木技術者としての役割を再認識することを目標として、2002 年度から毎年さまざまなテーマで支部独自講演会を実施している（表 8.5）。

表 8.5 講演会の演題

年 度	内 容
2014	次世代に残る最高品質のコンクリートへの挑戦
2015	日本人エンジニアの海外での活躍
2016	持続可能な社会形成にむけた国際目標 SDGs と世界のインフラ整備
2017	“総合土砂管理”とは？--流砂系と私たちの暮らし
2018	地域防災とインフラを支えて（西部支部設立 80 周年記念行事）
2019	i-Construction の実現に向けて
2020	高潮って、何？備えはどうする？
2021	インフラ DX の最近の取組み～ここまでの九州での先端的展開
2022	最新の交通ネットワークを支える技術と計画
2023	福岡空港滑走路増設事業「2 本目の滑走路が拓くアジアの玄関・福岡の未来」

4) 国際交流（国際交流部会）

土木学会西部支部（日本）－大韓土木学会釜山支部（韓国）間のジョイントセミナーを平成 18 年から隔年で開催している。平成 26 年に台湾公共工程学会が加わり日韓台ジョイントセミナーとなり、平成 28 年に日韓台ジョイントカンファレンスに改称された。

カンファレンスは研究活動の報告にあたるテクニカルセッション、現場見学会、懇談会から構成されており、学識経験者のみならず学会活動を支えるさまざまな方に情報を提供出来るものを目指している。

2006 年 第 1 回ジョイントセミナー2006（釜山）

2008 年 第 2 回ジョイントセミナー2008（福岡）

2010 年 第 3 回ジョイントセミナー2010（釜山）

2012 年 第 4 回ジョイントセミナー2012（熊本）

2014 年 土木学会 100 周年記念第 5 回日韓台ジョイントセミナー（釜山）

2016 年 日韓台ジョイントカンファレンス 2016（高雄）

2018 年 日韓台ジョイントカンファレンス 2018（福岡）

2023 年 日韓ジョイントカンファレンス 2023（釜山）

5) 見学会（見学部会）

毎年、親子見学会を夏休み期間中に、また一般・会員向け見学会を「土木の日」前後に実施している。参加者は各 40 名程である。

<近年の見学会場>

- ・長崎 497 号調川トンネル・唐津港耐震強化岸壁工事（2015 年）
- ・厳木ダム・九州新幹線（西九州ルート）久山トンネル・小石原ダム（2016 年）
- ・九州新幹線（西九州ルート）岩松トンネル・五ヶ山ダム（2017 年）

- ・九州新幹線（西九州ルート）大山路高架橋・香椎パークポート・小笠原ダム（2018 年）
- ・久留里トンネル・折尾駅周辺連続立体交差・福岡高速 6 号線（2019 年）
- ・香椎パークポート・西九州自動車道天神山トンネル（2022 年）
- ・唐津港岸壁工事・福岡 201 号九郎山トンネル（2023 年）

6) 「土木の日」および「くらしと土木の週間」行事（広報・連絡部会）

九州・沖縄地区（各県）において、子供から大人まで一般市民を対象とした体験型イベント（フェスティバル、フェア）や現場見学会・ツアー、パネル展（災害やその復興対策、土木遺産の紹介など）、シンポジウム等を開催している。

7) 全国大会（2017 年 9 月）

平成 29 年度全国大会（第 72 回）を 2017 年 9 月 11 日（月）から 13 日（水）までの 3 日間、九州大学伊都キャンパスをメイン会場として福岡市において開催した。大会のテーマを「土木の将来と国際化～世界的課題への挑戦、世界に通じる DOBOKU へ～」とし、研究討論会、年次学術講演会、特別講演会、パネルディスカッション、見学会等を実施した。また、ソラリアプラザ（福岡市）において、土木界が所蔵する貴重な資料、図面などの公開展示を行った（表 8.6）。

表 8.6 平成 29 年度全国大会実施行事一覧

行事	開催日	開催場所	入場者数等
学術講演会	9.11～9.13	九州大学・伊都キャンパス	講演件数 3,659 題 延べ参加者数 17,464 名
研究討論会	9.11・13		題目数 29 題 延べ参加者数 2,569 名
映画会	9.11～9.13		約 230 名
特別講演会	9.12	アクロス福岡	約 1,300 名
全体討論会	9.12	アクロス福岡	約 1,400 名
交流会	9.12	ソラリア西鉄ホテル	約 560 名
パネル展示	9.11～9.13	ソラリアプラザ	約 1,100 名

8) 表彰

西部支部による表彰は、技術賞、奨励賞、研究発表会優秀講演賞の 3 つである。土木技術の進展や土木工学に関連した研究・開発等において、優れた業績・活動に対し表彰を行う。奨励賞、優秀講演賞は 35 歳以下の若手研究者・技術者に対し贈られる。受賞一覧を表 8.7～8.8 に示す。

表 8.7 技術賞受賞一覧（2014～2023）

年 度	受賞業績	受賞者
2014	塩害に対応した高耐久性 PC 橋の建設に関する 16 年間の研究報告	豊福 俊泰（九州産業大学工学部）， 神山 徳夫， 上津 敏， 田中 和幸
2015	静水圧載荷試験装置の開発と 軽量モルタルゲートへの適用	松尾 栄治（九州産業大学）

2016	フルボ酸鉄シリカ資材を用いた 干潟再生工法の開発	渡辺 亮一（福岡大学）、 浜田 晃規（福岡大学）
	耐久性に優れた低炭素型新材料 ジオポリマーコンクリートの開発	合田 寛基（九州工業大学）、 一宮 一夫（大分工業高等専門学校）、 吉田 卓生（西松建設㈱）
2017	幅員 7 m未満の橋梁点検・補修に適した 移動式検査路（ブリッジハンガー）の開発	牧角 龍憲（一般社団法人 NME 研究所）
2018	該当なし	
2019	該当なし	
2020	該当なし	
2021	斜張橋斜材の多機能型点検装置の開発	渡邊 泰幸（西松建設㈱） 伊藤 幸広（佐賀大学）
2022	該当なし	
2023	再生二水石膏を用いた 中性固化材の改質効果の検証	藤川 拓朗（福岡大学）、 佐藤 研一（福岡大学）、 古賀千佳嗣（福岡大学）

表 8.8 奨励賞（技術部門）受賞一覧（2014～2023）

年 度	受賞業績	受賞者
2014	植物プランクトン間の栄養塩競合による アオコ防除技術の研究開発 ～珪藻類活性化のためのシリカ添加～	西村 幸明（九州大学）
2015	けい酸塩系表面含浸材と回収水を用いた環境負荷 低減を目指したコンクリート改質技術	樋原 弘貴（福岡大学）
2016	亜硝酸を添加した高機能補修モルタルの開発	久保田崇嗣（福岡大学）
2017	予測型 CIM のトンネル現場適用事例	鈴木 拓也（㈱大林組）
2018	気候変動による大気・河川・海域の温度変化が 有明海の貧酸素水塊消長与える影響について	田所 壮也（九州大学大学院）
2019	水位情報に基づく洪水氾濫解析による洪水流量と 浸水域の推定～平成 29 年 7 月九州北部豪雨時の 花月川を対象にして～	桂 佑樹（九州工業大学大学院）
2020	該当なし	
2021	傾斜型ループ継手の引張耐荷性能に関する 実験的研究	緒方麟太郎（九州大学大学院）
2022	トンネルの 3D デジタルモデルの構築と維持管理 への活用可能性	本田 博之 （九州大学大学院附属アジア防災研究センター）
2023	AI による導水路覆工コンクリート背面空洞 分析支援システムの開発	上野 貴行（九州電力㈱総合研究所）

9) 支部ブランチ（沖縄会）

- ・ 8 月の「橋の日」にあわせ、県内橋梁の清掃などを行う。
- ・ 土木の日シンポジウム
土木の日にあわせ、土木工学に係るシンポジウムを開催
- ・ 技術講習会、技術講演会
- ・ 西部支部沖縄会技術研究発表会

9. 海外支部

(1) 海外支部・海外分会創設の経緯

1998年に国際委員会（当時）は「海外支所設立分科会」を設置し、海外に住む土木技術者を中心に、土木学会に興味を持つ外国人や在留邦人を海外会員に取り込み、「海外支所」の設立を目的に活動を開始した。2000年3月理事会において、「海外支所設立」に向けた現況について報告するとともに、台湾から申請のあった支所（Taiwan Section）の設置について積極的に推進したい旨の報告を行った。あわせて、外国人会員に対するサービスを充実させるため、一元的に海外会員に対するサービスを行っていく必要から、海外会員に対する土木学会としての対応窓口の必要性についても触れ、「海外支部」の創設に向け取り組みを開始した。

2000年4月理事会において、海外支部の所在地を「東京都新宿区」とし、対象とする範囲は「日本国以外の国および地域」とすること、「海外支部の中に海外支所を置くことができる」旨の現在の「海外分会」の規定を盛り込んだ内容に細則を改正した。細則の改正を受け、2000年6月の理事会において「海外支部規程」が制定された。

海外分会の設立の規定に基づき、2001年度に台湾、韓国、英国の3分会が設立された。以後、モンゴル分会、トルコ分会、インドネシア分会、タイ分会、フィリピン分会、ベトナム分会を設立し、活動している。

海外支部長は、国際部門主査理事が務めている。歴代の海外支部長は、表9.1の通りである。

表 9.1 歴代海外支部長

任 期（年度）	海外支部長	任 期（年度）	任 期（年度）
2000	嘉門 雅史（京都大学）	2013～2014	霜上 民生（（一財）近畿建設協会）
2001～2002	三木 千壽（東京工業大学）	2015～2016	横田 弘（北海道大学）
2003～2004	草柳 俊二（高知工科大学）	2017～2018	須野原 豊（（公社）日本港湾協会）
2005～2006	高橋 修（（株）日本工営）	2019	茅野 正恭（鹿島建設）
2007～2008	日下部 治（東京工業大学）	2020～2021	木村 亮（京都大学）
2009～2010	古田 均（関西大学）	2022～2023	渡部 要一（北海道大学）
2011～2012	上田 多門（北海道大学）	2024～	塚原 健一（九州大学）

(2) 海外支部の主な活動

海外支部の主要活動として、海外支部会議を土木学会全国大会の開催期間に実施し、各分会の報告とともに、情報交換、交流活動が行われている。海外支部のもとに9つの分会が設立されており、それぞれ活動を行っている。

ここでは、各分会の設立日と2014年以降の主な活動を記す。

1) 台湾分会（2000年4月19日設立）

- ・「日台韓ジョイントセミナー」（2014年開始、以後隔年開催）を通して、日台韓の若手技術者・研究者による研究発表や人的ネットワーク形成を支援。
- ・中国土木水利工程学会と連携して、能登地震災害調査フォーラムを開催。

- ・台湾営建研究院の日本視察の企画運営.

2) 韓国分会（2000年7月6日設立）

- ・日台韓ジョイントセミナーの開催（前述）.

3) 英国分会（2001年10月16日設立）

- ・2017年より Roland Paxton 教授と五十畑 弘教授の指揮の下，英国土木学会（ICE），米国土木学会（ASCE）と連携し，世界最古の現役道路吊橋である Union Chain Bridge の保存活動と，ASCE の International Historic Engineering Landmark (IHEL) への登録申請を行い，2019年に登録された．記念盾の作成にも協力し，2023年の記念盾除幕式には，土木学会を代表して参加した．

4) モンゴル分会（2005年11月15日設立）

5) トルコ分会（2007年4月24日設立）

- ・地震工学委員会と連携し，ISO23469（Bases for design of structures- Seismic actions for designing geotechnical works）普及にむけたセミナーを開催（2016年）した．また，トルコ・シリア地震災害調査を実施（2023，2024年）するなど，定款的に情報交換を行っている．

6) インドネシア分会（2007年6月22日設立）

7) タイ分会（2008年1月18日設立）

- ・構造工学委員会によるタルムアン洞窟崩落事故調査において，タイ国のトンネル工学専門家を招聘し，調査と情報交換に協力した．

8) フィリピン分会（2008年5月7日設立）

9) ベトナム分会（2009年1月16日設立）

- ・日越土木技術者協力推進センターを，2014年にベトナム国家建設大学（現在，ハノイ土木大学）に，2016年にホーチミン市工科大学に開設した．以降，セミナーや意見交換会，交流の場として発展している．
- ・日越大学とのジョイントセミナー（2016年，2018年，2021年）を実施するほか，日越大学社会基盤プログラム10周年記念セミナーに協力した．